

# 島しょ地域における特別支援学校分教室の あり方検討委員会 報告書

令和6(2024)年1月

島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会

## はじめに

これまで東京都の島しょ地域には特別支援学校はなく、障害のある児童・生徒は小・中学校の特別支援学級等に通い、高等学校段階への進学を希望する場合には寄宿舎へ入舎して島外の特別支援学校に通学することにより高等学校段階に当たる後期中等教育の教育機会を確保してきた。また、寄宿舎の入舎に伴い保護者が負担する帰省費等の経費については、就学奨励費により経済的な負担軽減を図ってきた。

一方で、保護者からは引き続き時間的な負担の軽減を求める声があり、特に八丈町からは、知的障害のある児童・生徒の増加傾向が見られ、今後、継続して知的障害のある複数の生徒が中学校を卒業することが見込まれることから、島内での特別支援教育の充実が強く要望されていた。

これらの状況に適切に対応するため、東京都教育委員会は、島しょ地域としては初めてとなる分教室（本校：東京都立青鳥特別支援学校）を、令和3年度から令和5年度までの3年間のモデル事業として東京都立八丈高等学校内に設置した。

本モデル事業については、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画（令和4年3月）」において、八丈高等学校の生徒との交流及び共同学習や、島内の団体・企業等と連携した就職等の進路指導を通して、分教室における特色ある教育内容や適切な規模の在り方等を検討し、その効果を検証することとしている。

上記の趣旨を踏まえ、八丈分教室モデル事業を検証するため、令和5年6月、学識経験者や学校関係者等からなる「島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会」を設置し、八丈分教室モデル事業に係るアンケート調査や、八丈町役場と八丈町立小・中学校に対してヒアリング調査を実施するとともに、あり方検討委員会を4回開催し、議論を重ねてきた。その検証結果をここに報告書として取りまとめた。

本報告書が、島しょ地域における分教室の安定的な運営に資するとともに、新たに島しょ地域に分教室の設置を検討する際の一助となることを期待する。

令和6年1月

島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会

# 目 次

|  |           |
|--|-----------|
| <b>第1章 八丈分教室モデル事業の検証に当たって</b> .....        | <b>1</b>  |
| 1 計画での位置付け .....                           | 2         |
| 2 検証方法 .....                               | 2         |
| 3 検証経緯 .....                               | 3         |
| <b>第2章 八丈分教室モデル事業の取組</b> .....             | <b>5</b>  |
| 1 学校概要 .....                               | 6         |
| (1) 東京都立青鳥特別支援学校八丈分教室 .....                | 6         |
| (2) 東京都立青鳥特別支援学校 .....                     | 7         |
| (3) 東京都立八丈高等学校 .....                       | 8         |
| 2 八丈分教室における教育活動 .....                      | 9         |
| (1) これまでの取組や行事等 .....                      | 9         |
| (2) 教育活動 .....                             | 10        |
| (3) 八丈高等学校との交流・連携 .....                    | 16        |
| (4) 青鳥特別支援学校（本校）との交流・連携 .....              | 20        |
| <b>第3章 八丈分教室モデル事業の効果検証</b> .....           | <b>21</b> |
| 1 取組の成果、運営上の課題及び今後の方策 .....                | 22        |
| (1) 教育活動 .....                             | 22        |
| (2) 学校経営 .....                             | 25        |
| (3) 入学相談 .....                             | 28        |
| (4) 進路指導 .....                             | 32        |
| 2 八丈分教室モデル事業の検証報告 .....                    | 35        |
| <b>第4章 島しょ地域における分教室設置の考え方</b> .....        | <b>37</b> |
| 1 検討の視点 .....                              | 38        |
| 2 今後の島しょ地域における分教室設置の考え方 .....              | 41        |
| <b>参考資料</b> .....                          | <b>43</b> |
| 資料1 八丈分教室モデル事業に係るアンケート調査 .....             | 44        |
| 資料2 八丈町役場へのヒアリング調査 .....                   | 74        |
| 資料3 八丈町立小・中学校へのヒアリング調査 .....               | 76        |
| 資料4 島しょ地域の知的障害特別支援学級 在籍者の状況 .....          | 79        |
| 資料5 八丈町の知的障害特別支援学級 在籍者の状況 .....            | 80        |
| 資料6 島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会 設置要綱 ..... | 81        |
| 資料7 島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会 委員名簿 ..... | 82        |



# 第1章

## 八丈分教室モデル事業の検証に当たって



## 1 計画での位置付け

東京都教育委員会は、「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画（令和4年3月）」において、八丈高等学校内に設置した青鳥特別支援学校八丈分教室（以下「八丈分教室」という。）でのモデル事業により、島しょ地域の分教室における特色ある教育内容や適切な規模の在り方等を検討し、その効果を検証していくこととしている。

### 〈東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画 61頁〉

都教育委員会では、島しょ地区に在住する障害のある生徒について、都立特別支援学校寄宿舎への入舎を認め、後期中等教育の場を確保するとともに、寄宿舎に入舎する生徒の帰省について、国の就学奨励事業の対象外となる付添人の交通費等を都の単独事業として支給対象とするなど、保護者の経済的な負担の軽減を図っています。

八丈町では、小・中学校の知的障害特別支援学級に在籍する児童・生徒の人数が増加傾向にあり、今後、継続して、知的障害のある生徒が複数、中学校を卒業することが見込まれることから、これらに適切に対応するため、令和3年度に八丈高等学校内に青鳥特別支援学校八丈分教室を設置しました。

八丈分教室においては、令和3年度から3年間のモデル事業を実施し、八丈高等学校の生徒との交流及び共同学習や、島内の団体・企業等と連携した就職等の進路指導を通して、分教室における特色ある教育内容や適切な規模の在り方等を検討し、その効果を検証していきます。

## 2 検証方法

八丈分教室モデル事業の検証に当たり、令和5年6月に、学識経験者、都教育庁関係者及び学校関係者からなる「島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会」（以下「あり方検討委員会」という。）を設置した。

あり方検討委員会では、八丈分教室及び八丈高等学校の生徒、保護者並びに教職員を対象に八丈分教室モデル事業に係るアンケート調査を実施するとともに、八丈町役場と特別支援学級を設置している八丈町立小・中学校に対してヒアリング調査を行った。その上で、八丈分教室の取組の成果と運営上の課題について協議を重ね、今後の方策を整理した。

最終的に、これらを参考として八丈分教室モデル事業の効果を検証するとともに、島しょ地域における分教室設置の考え方を報告書としてまとめた。

### 3 検証経緯

#### 〈島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会〉

| 回数  | 日時         | テーマ  |
|-----|------------|--|
| 第1回 | 令和5年6月20日  | <ul style="list-style-type: none"><li>・八丈分教室の活動状況等について</li><li>・アンケート調査の実施について</li><li>・あり方検討委員会での検討方法について</li><li>・意見交換</li></ul>   |
| 第2回 | 令和5年7月26日  | <ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート調査の結果について</li><li>・八丈町役場へのヒアリング調査について</li><li>・八丈町立小・中学校へのヒアリング調査について</li><li>・あり方検討委員会報告書（案）等について</li><li>・各委員からの意見聴取について</li><li>・意見交換</li></ul> |
| 第3回 | 令和5年9月21日  | <ul style="list-style-type: none"><li>・あり方検討委員会報告書（案）について</li><li>・今後のスケジュールについて</li><li>・意見交換</li></ul>   |
| 第4回 | 令和5年11月22日 | <ul style="list-style-type: none"><li>・あり方検討委員会報告書（案）について</li><li>・今後のスケジュールについて</li><li>・意見交換</li></ul>   |

第  
1  
章

第  
2  
章

第  
3  
章

第  
4  
章

參  
考  
資  
料



## 第2章

# 八丈分教室モデル事業の取組



# 1 学校概要

## (1) 東京都立青鳥特別支援学校八丈分教室

八丈分教室は、青鳥特別支援学校の分教室として、八丈高等学校内に令和3年4月に開設した、東京都では初めてとなる島しょ地域の特別支援学校である。生徒が希望する進路実現を目指し、八丈島の豊かな自然、歴史、産業等を生かした様々な教育活動を展開している。

(生徒数・教職員数は令和5年5月1日時点)

| 名称     | 東京都立青鳥特別支援学校八丈分教室   |
|--------|---|
| 設置場所   | 東京都八丈島八丈町大賀郷 3020 番地<br>八丈高等学校内   |
| 本校     | 東京都世田谷区下馬二丁目 38 番 23 号<br>青鳥特別支援学校  |
| 障害種別   | 知的障害教育部門  |
| 課程・学科  | 高等部普通科  |
| 教育課程   | 本校に準じて八丈分教室の教育課程を編成   |
| 学級・生徒数 | 3学級7名<br>(第1学年2名、第2学年2名、第3学年3名)   |
| 教職員    | 副校長1名、教諭6名<br>都立学校経営企画室支援員(会計年度任用職員)1名<br>八丈高等学校の養護教諭、経営企画室職員(事務・技能・栄養士)<br>が八丈分教室を兼務 |



## (2) 東京都立青鳥特別支援学校

青鳥特別支援学校は、昭和22年に設置した日本で最初の公立の知的障害特別支援学校である。生徒の適性に応じて、自立と社会参加を目指した教育の推進に向けた指導を実施している。令和3年度に八丈分教室を開設、令和5年度に職業教育を主とする専門学科である職能開発科<sup>※1</sup>を設置し、普通科と合わせ2科1分教室という新たな体制となっている。

(生徒数・教職員数は令和5年5月1日時点。八丈分教室は含まず。)

| 名称     | 東京都立青鳥特別支援学校   |
|--------|--|
| 設置場所   | 東京都世田谷区下馬二丁目38番23号<br>(仮設校舎。現在本校舎改築中)  |
| 障害種別   | 知的障害教育部門   |
| 課程・学科  | 高等部普通科、職能開発科   |
| 学級・生徒数 | 普通科<br>21学級 131名<br>(第1学年38名、第2学年49名、第3学年44名)<br>職能開発科<br>2学級 20名<br>(第1学年20名) |
| 教職員    | 統括校長1名、副校長1名<br>教職員(教諭・養護教諭・実習助手)57名<br>経営企画室職員(事務・技能・栄養士)8名                   |



※1 生徒全員の企業就労を目指す職業教育を主とする専門学科として、知的障害が軽度から中度の生徒を対象とした学科

### (3) 東京都立八丈高等学校

八丈高等学校は、昭和23年に設置した東京都立園芸新制高等学校八丈分校を前身として、昭和25年9月に開設した。八丈町で唯一の高等学校として、進学から就職まで、島内生徒の多様な進路先に対応した教育課程<sup>※2</sup>を編成している。また、探究学習「八文学」での地域協働やハワイ研修<sup>※3</sup>による国際交流等、魅力ある教育活動を展開するとともに、企業連携や高大連携を推進し、進路希望をより高いレベルで実現することを目指している。

(生徒数・教職員数は令和5年5月1日時点)

| 名称     | 東京都立八丈高等学校   |
|--------|--|
| 設置場所   | 東京都八丈島八丈町大賀郷 3020 番地   |
| 課程・学科  | 全日制（普通科、併合科〈園芸科、家政科〉）<br>定時制（普通科）  |
| 学級・生徒数 | 全日制<br>普通科 6 学級 117 名<br>(第1学年 41 名、第2学年 38 名、第3学年 38 名)<br>併合科〈園芸科、家政科〉 3 学級 15 名<br>(第1学年 5 名、第2学年 6 名、第3学年 4 名)<br>定時制<br>普通科 4 学級 16 名 |
| 教職員    | 校長 1 名、副校長 2 名（全日制、定時制）<br>教職員（教諭・養護教諭・実習助手） 38 名<br>経営企画室職員（事務・技能・栄養士） 10 名   |



- ※2 八丈高等学校では、多様な選択科目の設置、習熟度別授業や少人数制授業の実施、地域と協働した学習を推進している。
- ※3 八丈高等学校はハワイ州のハワイ大学ヒロ校やワイアケア高校と令和元年8月に姉妹校提携を結び、それ以降相互に訪問を実施して、国際交流・語学研修を行っている。

## 2 八丈分教室における教育活動

### (1) これまでの取組や行事等

八丈分教室モデル事業を推進するに当たり、青鳥特別支援学校内において令和2年10月から八丈分教室の開設準備を開始した。八丈分教室の教育課程は、本校である青鳥特別支援学校の教育課程を参考にして検討した。また、八丈高等学校との交流及び共同学習、地域・地元企業等と連携した進路指導、八丈島の自然や文化等の特色を生かした教育活動を通して、卒業後、生徒が島内において自立と社会参加を実現できるよう教育内容を検討した。

交流及び共同学習については、八丈分教室と八丈高等学校の教職員が共通理解や情報共有を図りながら、体育祭や文化祭（八高祭）等の行事を合同で行っている。進路指導では、地元企業等と事前の打合せと調整を行い、生徒の就業体験や産業現場等における実習を実施している。

これまでの取組や八丈高等学校と共同実施した行事等は次のとおりである。

| 年度            | 月  | 主な取組や行事等（令和5年9月時点）               |
|---------------|----|----------------------------------|
| 2020<br>(令和2) | 9  | 八丈分教室モデル事業公表                     |
|               | 11 | 島内向け学校説明会（八丈高等学校会場）              |
|               | 1  | 令和3年度入学生出願（八丈高等学校会場）             |
|               | 2  | 令和3年度入学生入学相談（八丈高等学校会場）           |
|               | 3  | 入学説明会（オンライン実施）                   |
| 2021<br>(令和3) | 4  | 第1回入学式挙行（八丈高等学校全日制・定時制と合同実施）     |
|               | 6  | 体育祭（八丈高等学校全日制と合同実施）              |
|               | 9  | 文化祭（八高祭）（八丈高等学校全日制・定時制と合同実施）     |
|               | 10 | 第1学年移動教室（日程、交通手段及び宿泊先は八丈高等学校と同一） |
| 2022<br>(令和4) | 4  | 第2回入学式挙行（八丈高等学校全日制・定時制と合同実施）     |
|               | 6  | 体育祭（八丈高等学校全日制と合同実施）<br>第2学年就業体験  |
|               | 9  | 文化祭（八高祭）（八丈高等学校全日制・定時制と合同実施）     |
|               | 10 | 第1学年移動教室（日程、交通手段及び宿泊先は八丈高等学校と同一） |
|               | 11 | 第2学年産業現場等における実習                  |
|               | 2  | 第2学年修学旅行（八丈高等学校と一部で同一行程）         |
| 2023<br>(令和5) | 4  | 第3回入学式挙行（八丈高等学校全日制・定時制と合同実施）     |
|               | 5  | 第3学年産業現場等における実習                  |
|               | 6  | 体育祭（八丈高等学校全日制と合同実施）              |
|               | 9  | 文化祭（八高祭）（八丈高等学校全日制・定時制と合同実施）     |

## (2) 教育活動

### 〈八丈分教室のカリキュラム〉

|                            | 1年          | 2年                       | 3年              | 卒業                           |
|----------------------------|-------------|--------------------------|-----------------|------------------------------|
| ア 教科学習                     | 通年（特別活動を含む） |                          |                 | 島内での自立と社会参加<br>（企業や事業所等への就労） |
| イ 作業学習                     | 通年（週9コマ）    |                          |                 |                              |
| ウ 就業体験・<br>産業現場等<br>における実習 | 職場見学        | 就業体験、<br>産業現場等<br>における実習 | 産業現場等<br>における実習 |                              |

### 〈週時程（3学年共通）〉

|   | 月     | 火  | 水    | 木    | 金             |
|---|-------|----|------|------|---------------|
| 1 | 国語    | 数学 | 作業学習 | 数学   | 国語            |
| 2 | 作業学習  | 音楽 | 作業学習 | 国語   | 理科            |
| 3 | 作業学習  | 美術 | 作業学習 | 保健体育 | 社会            |
| 4 | 作業学習  | 美術 | 作業学習 | 保健体育 | 情報            |
|   | 給食・休憩 |    |      |      |               |
| 5 | 音楽    | 家庭 | 作業学習 | 職業   | 総合的な探究<br>の時間 |
| 6 | 道徳科   | 家庭 | 作業学習 | 外国語  | ホームルーム<br>活動  |



## イ 作業学習

作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。八丈分教室では作業学習の授業形態をより実践的にして指導を行っており、作業学習を通して、働く意欲や態度、職業生活に必要な知識・技能の習得を図っている。

開設初年度は、本校も含め多くの都立特別支援学校で設定している、「事務」と「清掃」の2作業種を選定し、全ての生徒が学習する形式で実施してきた。

「事務」では、オフィス作業の基礎となる印刷や資料丁合、事務用品の取扱い等を学習した。「清掃」では、自在ほうきやダスタークロス、スクイージー（窓ガラス等の水切りに使われる掃除用具）等の用具を使った床・窓清掃を学習した。

開設2年目からは、上記2作業種に加え「食品加工」を設定し、島の特産物である「島唐辛子」を使った七味唐辛子製造として、食材の計量、粉碎、調合、封入等に取り組んできた。

3年目である本年度は、これまで学習してきた「事務」や「清掃」の技術を活用し、八丈高等学校内の陶芸室を刷新してカフェ（店名「チルチルミチル」）を開店した。カフェでは、学習の一環として、生徒による飲料の提供や七味唐辛子（商品名「シマカラ」）の販売等を定期的に行っている。

### 【事務】



丁合・製本



八丈高等学校全日制の卒業文集を製本  
（贈呈の場面）



【清掃】



スクイージーを使った窓掃除



集中作業学習（八丈高等学校入学者選抜の期間に、八丈支庁に協力を得て行っている授業）として公用車洗浄作業を実施

【食品加工】



島唐辛子栽培



七味唐辛子「シマカラ」の製造

【八丈分教室カフェ】



陶芸室をカフェとして改装



令和5年度の文化祭（八高祭）でカフェ「チルチルミチル」をオープン

## ウ 就業体験・産業現場等における実習

都立特別支援学校では、将来の自立と社会参加を見据え、授業の一環として就業体験・産業現場等における実習（インターンシップ）を企業や事業所等の協力を得て実施している。

八丈分教室においては、島内の事情に合わせた就労先の開拓と同時に、障害者雇用についての理解啓発を行っている。また、島内の企業・店舗や官公庁、福祉施設等の理解と協力を得て、就業体験や産業現場等における実習を実施している。

### 【職場見学（主に1年生）】

職場見学は、卒業後の進路への関心を高め、社会人としての心構えを養うことを目的に実施する。島内の仕事を知り、働く人の様子を見学する。



製菓店（パン等製造）



フェニックス・ロベレニー農家

### 【就業体験（2年生）】

就業体験は、実際に企業や施設で働くことの「体験」に主眼を置き、教員付添いにより実施する。



回転焼製造・販売（神湊漁港）



島しょ農林水産総合センター八丈事業所

### 【産業現場等における実習（2・3年生）】

就業体験を踏まえ、3日から1週間程度、島内の企業や施設等で働くことを2年生で1回、3年生で2回程度、産業現場等における実習として体験する。教員は定期的に巡回するが実際の指導は実習先の担当者が実施する。



スーパーマーケット



商店でのくさや製造



八丈町役場



オンライン実習

#### 〈就業体験・産業現場等における実習先一覧〉 （令和5年9月時点）

|                 |                                     |
|-----------------|-------------------------------------|
| 就業体験            | 久福茶屋（合同会社ライフベースが運営する店舗での回転焼製造・販売業務） |
|                 | 島しょ農林水産総合センター八丈事業所（主に見学）            |
|                 | 長田商店（くさや製造・販売店舗での体験）                |
|                 | 八丈書房（書店での事務・軽作業）                    |
| 産業現場等<br>における実習 | みはらしの湯（町運営の温泉施設での作業）                |
|                 | 八丈ストア（バックヤード業務）                     |
|                 | 沖ワークウェル（オンラインを活用したオフィス事務）           |
|                 | 八丈町役場（事務・軽作業）                       |
|                 | ちょんこめ作業所（就労継続支援B型事業所）               |

### (3) 八丈高等学校との交流・連携

#### ア 交流及び共同学習

八丈分教室の特徴は、高等学校併設の立地条件を生かし、八丈高等学校との交流及び共同学習を取り入れながら教育活動を展開してきたことである。

#### 〈交流及び共同学習の例〉

|          |      |           |                |   |  |
|----------|------|-----------|----------------|---|--|
| 交流及び共同学習 | 特別活動 | ホームルーム活動  |                | 一部のホームルーム活動：全日制各学年                                  |  |
|          |      | 学校行事      | 儀式的行事          | 入学式：全日制・定時制<br>始業式・終業式：全日制                          |  |
|          |      |           | 文化的行事          | 文化祭（八高祭）：全日制・定時制                                    |  |
|          |      |           | 体育的行事          | 体育祭：全日制   |  |
|          |      |           | 旅行・<br>集団宿泊的行事 | 移動教室（都内）：全日制第1学年<br>修学旅行（沖縄）：全日制第2学年<br>校外学習：全日制各学年 |  |
|          | 教科学習 | 国語        | 全日制（書道）        | 一部の授業で実施  |  |
|          |      | 音楽        | 全日制（音楽）        |   |  |
|          |      | 家庭        | 全日制（家政）        |   |  |
|          |      | 総合的な探究の時間 | 全日制（八丈学）       |   |  |

特別活動における交流及び共同学習は、開設当初から定期的に行うよう計画を立てて実施している。例えば、第1学年移動教室については、日程、交通手段及び宿泊先は全日制と同一であるが、行程は別とし、本校である青鳥特別支援学校との交流や都内散策、進路先見学等を設定している。また、第2学年修学旅行についても、日程、交通手段及び一部見学先は全日制と同一であるが、行程は別とし、生徒の実態に合わせた形にしている（令和4年度は入学相談の日程の都合上、同一日程での実施が困難だったため、旅行先での短時間交流のみとなった。）。

教科学習における交流及び共同学習は、国語、音楽や家庭等の実技を伴う教科を中心に実施している。

それぞれ実施前には八丈高等学校・八丈分教室両校の教員が打合せを行い、八丈分教室生徒への配慮事項や教材の工夫等を検討・確認して実施している。お互いの生徒の実態や教育活動について理解が深まることにより、様々な取組が両校の教員から提案されるようになってきている。

## ① 儀式的・文化的・体育的行事を八丈高等学校と合同で実施

## 【入学式】



八丈高等学校全日制、定時制及び八丈分教室の2校3課程が合同で実施

## 【体育祭】



八丈高等学校全日制と合同で実施

## 【文化祭（八高祭）】



八丈高等学校全日制、定時制及び八丈分教室の2校3課程が合同で実施



カフェ「チルチルミチル」で飲料の提供や七味唐辛子「シマカラ」を販売

## ② 旅行・集団宿泊的行事の一部を合同で実施

## 【移動教室】



日程、交通手段や宿泊先は八丈高等学校全日制と同一で実施。都内活動は別設定

## 【修学旅行】



令和4年度は日程が異なったため、那覇空港で八丈高等学校生徒と交流を設定

**【宿泊防災訓練】**



八丈高等学校の生徒と一緒に防災カードゲームをしながら防災について学ぶ様子

**【校外学習】**



大瀧浦園地にて、八丈高等学校生徒と防災食を調理し実食

**③ 一部の教科学習の授業を合同で実施**

**【国語】**



八丈高等学校の生徒と一緒に書き初めに取り組む様子

**【音楽】**



芸術発表会に向け合同歌唱練習

**【家庭】**



修学旅行の事前学習としての沖縄料理の調理活動

**【総合的な探究の時間】**



八丈植物公園でのフィールドワーク

## イ 施設面・教職員の連携

八丈分教室は、八丈高等学校内の格技棟2階にある多目的用途教室（ミーティングルーム）を活用した三つの普通教室と、八丈高等学校教室棟にある一つの作業実習室を専用教室としている。生徒の昇降口も格技棟に設定している。

特別教室や体育施設等については、開設当初から八丈高等学校と共用しているが、さらに、令和5年度からは両校の週時程を調整し、週一回、八丈高等学校教室棟3階にある講義室も使用できるようにし、授業を行っている。

教職員の連携としては、八丈分教室設置に合わせ八丈高等学校の全日制職員室レイアウトを変更し、八丈分教室の教職員と八丈高等学校全日制的教職員が同じ職員室を利用している。



八丈高等学校正門入口



普通教室

#### (4) 青鳥特別支援学校（本校）との交流・連携

本校である青鳥特別支援学校とは、オンラインでの授業交流や、1年生の移動教室時に学校を訪問し、交流活動を行っている。

オンラインでの授業交流は、週時程が異なるため時間設定の工夫が必要である。今後、昼休みのオンライン交流等、お互いの教育課程に無理のない範囲で、定期的に交流活動を計画していく。

移動教室時の交流では、本校の1年生への八丈島プレゼンテーションや音楽交流、作業学習体験等を行っている。

令和4年度末には、本校で行われた壁画プロジェクト（解体予定の体育館に壁画を制作する活動）において、八丈分教室生徒が描いたデザインも用いて作品を制作した。

さらに、令和5年度は、作業学習での生産品を本校と八丈分教室が相互に発注し、それぞれのカフェ（本校は「ブルーバードカフェ」、八丈分教室は「チルチルミチル」）で販売する、新たな交流を実践した。



オンラインを活用した本校との交流



八丈分教室生徒が本校生徒に発表している様子



八丈分教室生徒が描いたデザインの作品



八丈分教室生徒がオンラインを使って、本校作業学習生産品を発注している様子



## 第3章

# 八丈分教室モデル事業の効果検証



## 1 取組の成果、運営上の課題及び今後の方策

あり方検討委員会では、八丈分教室モデル事業を検証するため、八丈分教室モデル事業に係るアンケート調査を実施するとともに、八丈町役場と特別支援学級を設置している八丈町立小・中学校に対しヒアリング調査を行った。

その上で、これらの結果と本報告書第2章の内容も踏まえ、「(1) 教育活動」、「(2) 学校経営」、「(3) 入学相談」及び「(4) 進路指導」の四つの視点から、八丈分教室モデル事業の「ア 取組の成果」と「イ 運営上の課題」について協議を重ね、「ウ 今後の方策」を整理した。(八丈分教室モデル事業に係るアンケート調査、八丈町役場へのヒアリング調査及び八丈町立小・中学校へのヒアリング調査については、参考資料参照)

### (1) 教育活動

#### ア 取組の成果

##### (教科学習・作業学習等)

- 島内の小・中学校との連携を図り、一人一人の教育的ニーズを踏まえ、障害に応じたきめ細かな指導を実施している。
- 作業学習等については、島内の企業や施設等の理解・協力の下、島内での自立と社会参加に向けて必要な力を身に付けられるよう実施している。
- 島しょ地域という限られた範囲の中で、地域の人たちと非常に距離が近い形で教育が展開できている。

##### (八丈高等学校との交流・連携)

- 入学式や体育的・文化的行事等は八丈高等学校と合同実施し交流を深めているが、そのほかにも八丈高等学校・八丈分教室双方の教員から出される多様なアイデアによる交流及び共同学習を実施しており、障害のある生徒と障害のない生徒が共に学び共に育つ教育環境が整備されている。
- 八丈高等学校の生徒と一緒に暮らす中で、障害のある子供の学びとともに、同じ校舎で過ごす生徒への学びにもつながることは大きな魅力の一つである。
- 交流及び共同学習については、八丈高等学校の教員の理解を得ながら、徐々に進めてきたことが功を奏している。八丈高等学校の教員が八丈分教室の生徒や教員のことを、逆に八丈分教室の教員も八丈高等学校の生徒や教員

のことをよく理解し合った上で、少しずつ交流の実践を積み上げてきた。時間をかけゆっくと交流を広げてきた成果である。

### （共生社会、インクルーシブな教育等）

- 都立の高等学校内に初めて特別支援学校の分教室を設置したことは、特別支援教育を進めていく上で共生社会の構築に向けたモデルケースといえる。
- 八丈分教室が設置されたことにより、障害のある子供たちが自己の生活する地域（八丈島）において、小中高と一貫した教育の機会が得られるようになり、インクルーシブ教育システムに必要な「多様な学びの場」の創出につながっている。
- 高等学校段階での学びを、保護者の元を離れずに、今まで小学校・中学校と積み重ねてきた地域において、同年代や地域の人々とのつながりの中で深められるということ、また、地元での就職に向けて学びを深められるということは大変意義がある。
- アンケート調査では、八丈分教室の生徒全員が、八丈島で学習できてうれしいと回答している。
- また、両校の交流の意義について、多様性や共生社会の理解促進、インクルーシブな教育の充実等が多数挙げられ、日々の交流を通じ両校の生徒がお互い良い刺激を受け成長につながっているというコメントもあった。

## イ 運営上の課題

### （教科学習・作業学習等）

- 八丈分教室の教育課程は本校の「職業自立類型」を参考に編成している。現在は生徒集団の障害の程度にばらつきは少ないが、今後、障害が重い生徒が入学した際には、教育課程の検討が必要である。

### （八丈高等学校との交流・連携）

- 八丈高等学校と八丈分教室の生徒の体力面や活動スピードの差が大きいいため、体育的行事については完全に同一内容の合同実施が難しい。

## ウ 今後の方策

### （教科学習・作業学習等）

- 今後、入学が見込まれる生徒の実態を踏まえ、教育課程の工夫や改善を検討していく。

- 作業学習の時間を活用し、例えば島の産業を生かした「シマカラ」の製造に加え明日葉クッキーなどの名物を作り、それを島外の特別支援学校のカフェで提供する。自分たちの取組が広く伝わっていくような活動、それが島に評判となって返ってくるような活動を企画していく。
- 島民とコラボレーションした取組を充実させていけると、八丈分教室を認知してもらうとともに、生徒の活動も広く評価してもらうことができる。地域の皆さんと連携した取組を進めていく。
- 東京では初めてだが、他県では離島への分教室の設置事例はある。今後同じような状況の分教室とネットワークを結び、学校経営や教育内容の情報交換を行い、離島ならではの教育を充実させていく。

#### (八丈高等学校との交流・連携)

- 八丈高等学校と合同実施する行事については、生徒の実態を考慮し、活動内容や方法を更に工夫して実施していく。
- 教科や科目等で枠組を決めるのではなく、八丈高等学校・八丈分教室双方の教育課程の教育効果がより上がる交流及び共同学習の形を教員同士が連携して検討し、引き続き取組を推進する。

#### 〈東京都教育施策大綱（令和3年3月）24頁〉

##### 4 教育のインクルージョンの推進

- すべての子供が、自らの力を最大限に伸ばし、主体的、積極的に社会参加できるようにするとともに、互いを理解しながら交流し、支え合う体験を通して、一人ひとりの「心のバリアフリー」を実現することが重要です。
- 子供たちにとって、学校生活等を通じて多様な人々と共に学ぶことが大切であり、そのことが、他者への共感や思いやりの心を育て、誰もが共に交流し、支え合う共生社会を実現することにつながります。
- こうした教育のインクルージョンを推進するためには、病気や障害等の状況にかかわらず、すべての子供たちを受け入れる姿勢や様々な専門性が必要です。
- 様々な状況の子供たちが、学習活動に参加している実感や達成感を感じながら充実した時間を過ごせるよう、柔軟な仕組みによる多様な学びの場を創出し、多様な個性を持つ子供たちが互いを認め、尊重し合いながら学ぶ環境を整えていきます。

## (2) 学校経営

### ア 取組の成果

#### (教職員体制)

- 副校長は、特別支援学校の管理職として八丈高等学校との日々の調整のほか、島内各所との連携を推進している。
- 学校活動に責任を持つ管理職が八丈分教室に常駐し、随時、迅速に対応することが円滑な学校運営につながっている。

#### 〈副校長が担った連携の例〉

- ・ 東京都八丈支庁（集中作業学習受入、作品展示及び広報紙への学校掲載）
- ・ 東京都教育庁八丈出張所（夏期教員研修講師）
- ・ 八丈町役場、八丈町議会及び八丈町教育委員会（実習受入、管内副校長連絡会での情報共有、八丈分教室の教育活動に関する情報提供等）
- ・ 福祉関係（就労継続支援 B 型事業所<sup>※5</sup>、ソーシャルファーム<sup>※6</sup>での進路指導等）
- ・ 企業関係（農業、流通、製菓、観光等地元企業との連携等）
- 養護教諭は八丈高等学校養護教諭が兼務し、緊急時の応急処置や健康診断の実施等を行っている。
- 八丈分教室の設置に当たり、八丈高等学校の経営企画室に庶務事務等を行う八丈分教室所属の都立学校経営企画室支援員（会計年度任用職員）を配置し、就学奨励費等、特別支援学校特有の業務の円滑な遂行につなげている。

#### (八丈高等学校との連携)

- 八丈分教室と八丈高等学校全日製の教員が同じ職員室を利用しており、日常的に連携及び情報共有を行っている。両校の教員が職員室で日々顔を合わせ、互いに声をかけやすい環境があることにより、交流及び共同学習の充実につながっている。
- 八丈分教室開設前の八丈高等学校側との入念な打合せにおいて、施設利用や生徒の安全、物品の管理等様々な取り決めを行った結果、大きな支障なく運営できている。

※5 一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である方に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行う事業所

※6 自律的な経済活動を行いながら、就労に困難を抱える方が必要なサポートを受け、他の従業員と共に働いている社会的企業

- 八丈高等学校の週時程を調整することにより、特別教室や普通教室の一部を、年間通して定期的に使用できるようにしている。
- 学校危機管理計画等、危機管理について両校一体のマニュアルに改訂し、合同で避難訓練や宿泊防災訓練を実施している。

#### (八丈町役場との連携)

- 学校給食は八丈町教育委員会との協定により八丈町給食センターから提供を受けている。

### イ 運営上の課題

#### (教職員体制)

- 校長は、行事や授業観察のため月一回程度八丈分教室を訪問している。ただ機会は限定されるため、副校長が対外的な代表者として対応している。
- 八丈分教室の教員には教科や特別支援教育の専門性も必要だが、あわせて、島の特別な環境、高等学校の中に設置された学校、少人数の教職員集団という条件の中で、他者と円滑なコミュニケーションが取れること、前向きにチャレンジしてみようとする意欲の高さが求められる。
- 教育課程の中で15の教科等を設定し、現在は6名の教員が一人当たり平均3教科等を主担当として受け持っている。また、校務分掌も一人当たり2～3分掌を兼務している。仮に学級数減（教員定数減）になった場合、一人当たりの担当教科や校務分掌が増えることが想定される。

#### (八丈高等学校との連携)

- 格技棟を普通教室として使用しているため、八丈高等学校の教室棟との距離がやや遠く、また、風雨時の音が気になることがある。

### ウ 今後の方策

#### (教職員体制)

- 校長の八丈分教室への訪問及び授業観察等を定期的かつ意図的に計画していくことが重要である。
- 日々の学校運営では、八丈高等学校との調整のうち副校長間で処理できるものと、校長間の調整が必要なものとを峻別することが大切になる。
- 副校長は特別支援学校管理職の立場で、日常的に八丈高等学校及び島内

各関係機関との調整に当たっている。八丈分教室が八丈高等学校の一部ではなく、一つの「学校」として地域に根付いていく上で管理職は不可欠であり、円滑な学校運営及び危機管理の観点からも引き続き副校長を配置することが重要である。

- 副校長は教員の人事管理・サービス監督の観点や、島しょ地域の特殊な環境下での教員のメンタルヘルスマネジメントの側面からも重要な存在である。
- 島内の特別支援教育の充実のため特別支援教育コーディネーター<sup>※7</sup>を担える教員や進路指導に力のある教員の配置に努めていく。
- 島には独自の文化や慣習、ルールがあり、進路指導や教育相談のみならず、特別支援教育に関する専門性や島の地域性を踏まえた判断が日常的に求められている。適材適所の教員配置が重要である。
- 事務等の補助については、引き続き都立学校経営企画室支援員（会計年度任用職員）を配置していく。

#### （八丈高等学校との連携）

- 施設に関しては、両校の週時程を調整しながら、八丈高等学校教室棟の講義室の使用回数を増やす工夫や、ほかの余剰教室が発生した際には活用を検討していくことが大切である。
- 今後の人事異動等を想定し、開設時の状況や八丈高等学校と取り決めたルール等について資料として明確化し、適切に引き継いでいく。
- 高等学校と特別支援学校が同じ場所にあることの効果として、教員の研修等で特別支援教育のノウハウを共有できる場を設定していく。

※7 学校内の関係者や福祉・医療等の関係機関との連絡調整及び保護者に対する学校の窓口として、学校内における特別支援教育に関するコーディネーター的な役割を担う者

### (3) 入学相談

#### ア 取組の成果

##### (入学相談)

- 八丈分教室開設以来、毎年複数の入学者を迎えている。

##### 〈八丈分教室への入学者数〉

- ・令和3年度：3名（現3年生）
- ・令和4年度：2名（現2年生）
- ・令和5年度：2名（現1年生）

- 島外からの転居による入学希望者が存在する。

##### 〈島外から八丈分教室への入学者数〉

- ・令和4年度：1名（都内市部からの転居）
- ・令和5年度：1名（都内区部からの転居）

##### (八丈分教室のPR)

- アンケート調査では、島内に八丈分教室が設置されたことは保護者の負担軽減につながっており、島外から移住された方にとっては八丈分教室の存在が島への移住の決め手の一つとなっていることが示されている。
- また、調査対象の約8割の方が、島内の人は八丈分教室の存在を認識しているのではないかと回答している。

##### (島内関係機関との連携)

- 八丈町子ども家庭支援センター等と連携し、生徒支援を行っている。

#### イ 運営上の課題

##### (入学相談)

- 島内中学校の特別支援学級在籍者の全てが八丈分教室に進学希望するわけではない。

##### 〈島内中学校特別支援学級の在籍者数〉

- ・令和3年度（令和2年度中学3年生）：4名  
⇒うち3名が八丈分教室に進学
- ・令和4年度（令和3年度中学3年生）：4名  
⇒うち1名が八丈分教室に進学
- ・令和5年度（令和4年度中学3年生）：2名  
⇒うち1名が八丈分教室に進学



### （適切な生徒規模等）

- 集団による教育活動を確保し個々の社会性を伸長していくという観点からは、毎年複数人の生徒入学が必要である。
- 生徒数については、生徒間での学び合いや生徒会等の自治活動、話し合い等のためにもある程度人数が必要になる。自治活動は社会に出る上でも必要な力である。
- また、作業学習を行うためにも一定数の生徒が必要であり、仲間と協力し合いながら作業するという経験を積むためには、ある程度の集団の規模は欠かせない。
- 八丈高等学校との交流及び共同学習により日常的な集団学習を補うとしても、八丈分教室内での同学年及び異学年の生徒との交流や、学校としての体制の維持の観点からも、各学年複数人の生徒の在籍が一定期間継続して見込まれることが必要である。
- 八丈分教室を安定的に運営することを考えると、一定の生徒数や一学年だけではなく複数学年の生徒の存在は必要になる。

### （八丈分教室のPR）

- 令和4年度末時点ではいまだ八丈分教室から卒業生が出ていないこともあり、特別支援学級の保護者をはじめとする島内全体に、八丈分教室の教育活動が十分浸透していない。
- アンケート調査では、調査対象の約2割と少数派ではあるが、島内の人には八丈分教室の存在をあまり認識していないのではないかとする声もあった。

### （島内関係機関との連携）

- 島外から八丈分教室に入学する場合、家族で移住する必要があるため、住居の確保や保護者の就業先が必要となる。
- アンケート調査やヒアリング調査からは、島内の小・中学校が特別支援教育の専門性に対して八丈分教室に期待していることや、八丈高等学校の中にも特別支援教育を必要とする子がいることが分かる。八丈分教室が、自校の生徒だけではなく、八丈町の小中高の子供たちの特別支援教育に果たす役割はこれから大きくなっていく。

## ウ 今後の方策

### (八丈分教室のPR)

- 島内の小・中学校に在籍する支援が必要な児童・生徒に関する情報を八丈町役場や小・中学校と共有するとともに、八丈分教室を進学先として選んでもらえるよう八丈分教室の魅力向上に努める。
- 八丈分教室卒業生の島内就職や八丈分教室の日常の教育活動等を島内外にPRしていく。
- 移住促進を図る八丈町役場とも連携して、島しょ地域における教育の良さを島内外に発信していく。
- アンケート調査では、自然豊かな環境での丁寧な教育指導、八丈高等学校との交流を通じた集団学習の確保、共生社会実現に向けた教育等、様々な八丈分教室の魅力が挙げられている。今後島内外に八丈分教室をアピールしていく際には、これらの強みを前面に出していくことが有効である。

### 〈これまでに実施したPRの例〉

- ・ 学校見学会（令和3年度：計11回実施、参加者計30名）  
（令和4年度：計5回実施、参加者計10名）  
（令和5年度：計5回実施、参加者計15名）
- ・ 八丈分教室への入学を検討している保護者向け説明会  
（令和4、5年度：各1回実施）
- ・ 島内企業と連携した生徒による作業学習生産品販売活動  
（令和4、5年度：各1回実施）

### 〈取組の方向性〉



### （島内関係機関との連携）

- 「都教委訪問※8」により、研修の実施や授業への指導・助言等を通して、学校等の教育課題に応じた支援を実施している東京都教職員研修センターと連携し、八丈分教室が島内の特別支援教育のセンター的機能※9を担い、研修会や巡回相談、教育相談を通じて、適切な支援へと結び付けていく。特別支援学級や通常の学級での特別支援教育の推進及び地域への啓発活動の拠点にもなることで、八丈分教室の魅力向上にもつながる。

---

※8 都内公立学校及び区市町村教育委員会からの申請を受け、原則として東京都教職員研修センター等の指導主事等を派遣し、学校教育の今日的課題についての研究・研修に対して、学習指導要領等の教育法規や国や都の方針等に基づき指導・助言することにより、学校等が抱えている諸課題の解決を支援することを目的とする。

※9 学校教育法第74条に、「特別支援学校においては、第72条に規定する目的を実現するための教育を行うほか、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、第81条第1項に規定する幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努めるものとする。」と定められており、このことを一般に、特別支援学校の「センター的機能」と呼んでいる。（文部科学省ホームページから引用）

## (4) 進路指導

### ア 取組の成果

#### (就業体験・産業現場等における実習)

- 島内の企業や事業所、官公庁等の協力を得て、職場見学、就業体験及び産業現場等における実習を計画的に実施している。
- 様々な体験を通じ、生徒の得意分野が発見されたり、仕事に対しての興味喚起につながったりすることにより、就労意欲の向上が図られている。
- 実習先で島民と直接触れ合うことにより、島内の障害に対する理解促進や八丈分教室の教育のアピールにつながっている。
- アンケート調査では、八丈分教室の生徒や保護者、教員の多くが、現在の職場見学、就業体験等が進路を考える上で役に立っていると回答している。

### イ 運営上の課題

#### (就労環境)

- 内地とは異なる就労環境があり、障害者が就労機会を得にくい。特にハローワークでの情報は少ない。

#### 〈島内の就労事情〉

- ・ 求人はホームページや店頭貼り紙、チラシ等で行われることが多い。
- ・ 事業所規模が小さく、障害者雇用枠が極めて少ない。
- ・ 主な産業は、農業、建設業、医療・福祉、卸売業・小売業及び宿泊業・飲食サービス業である。
- ・ 移動手段（運転免許）の有無、季節労働及び障害に合った業務の切り出しが困難等の理由により、条件が整わない場合が多い。

(参考) 一般的な特別支援学校の進路指導の流れ

- ①ハローワーク等を通じ、情報収集
- ②障害者雇用を考えている企業を訪問・相談
- ③職務設計（生徒本人に適した職務の開発）
- ④インターンシップ対象生徒の紹介及び面談
- ⑤インターンシップの実施（職場での実習及び評価）

- アンケート調査からは、障害者雇用という制度に対しての企業等の理解促進については今後の課題であるとの意見があった。
- 八丈町役場からは、八丈分教室が継続していく上で、狭い島内において卒業生の就労先のキャパシティが飽和状態になってしまうことが課題として指摘されている。

## ウ 今後の方策

### (就業体験・産業現場等における実習)

- ▶ 産業現場等における実習の実施は強く求められる。八丈分教室の存在を知ってもらう、また、職場開拓の一環として、就職はできないまでも実習は受けてもらう取組をより強化していくことが大切である。
- ▶ 特別支援学校では、高度な職業教育を行う関係で、特別専門講師として民間の企業経験者に講師を依頼している。教員の数が限られる中、島の人材の力を借りていくことも大事になる。

### (就労環境)

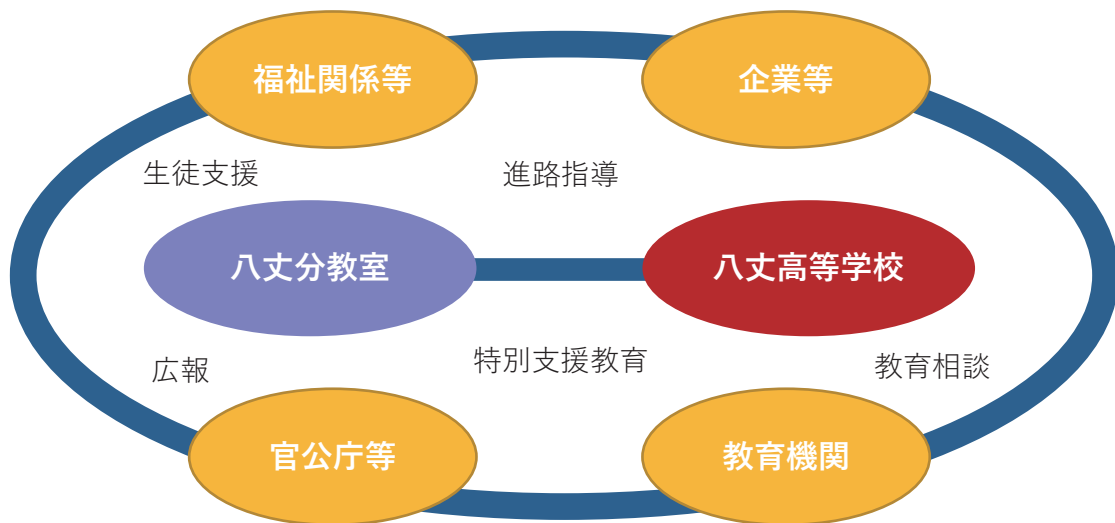
- ▶ 島内事情に合わせた就労先を開拓するため、青少年育成や産業・福祉の分野において中心的役割を担う団体や関係者等との連携を強化・継続する。
- ▶ チャレンジ雇用<sup>※10</sup>やソーシャルファーム、テレワーク等、多様な就労の形態を町の実情や生徒の実態、進路希望に応じて模索する。
- ▶ 障害者や八丈分教室の教育に理解と協力のある企業等を増やしていくため、生徒の職場見学や産業現場等における実習等を通して、島内各所に障害者の就労に関する意識を醸成する。

### 〈取組の方向性〉

|              |   |
|--------------|---|
| 企業就労         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習受入実績がある会社のほか、高齢者施設、リネン工場及び空港清掃等、生徒の実態を踏まえ様々な業種の企業と連絡を取り、実習や就労の実現に向け検討する。</li> </ul>                       |
| 福祉就労         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労継続支援 B 型事業所との連携を強化する。</li> <li>・就業体験や産業現場等における実習の受入依頼のほか、定期的な交流等も計画する。</li> </ul>                         |
| チャレンジ雇用      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、八丈支庁・八丈町役場において実施している実習等の継続とともに、チャレンジ雇用の活用が可能か検討を依頼する。</li> <li>・障害者雇用の理解促進について、八丈町役場に働きかけていく。</li> </ul> |
| オンラインを活用した就労 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインを活用すれば離島であることが障壁とはならないため、生徒の希望や実態に一致する場合は実習や就労につなげていく。</li> <li>・都内外を問わず情報を収集する。</li> </ul>            |
| 島外就労         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・島外への就労を希望する生徒に対しては、本校である青鳥特別支援学校と連携して進路指導を行う。</li> </ul>  |

※10 各省庁・自治体において、働く意欲のある障害者を非常勤職員として1年以内の期間を単位に雇用し、1～3年の業務の経験を踏まえて、ハローワーク等を通して企業等への就職につなげる制度

### 〈島内連携のイメージ〉



### 〈八丈町役場との連携の例〉



ロベレニくん

- ・ 令和3年度に行われた、八丈町公式 SNS イメージキャラクターのアイデア募集において、八丈分教室の生徒が、町の主要な産業である「フェニックス・ロベレニー」をモチーフにしたデザインを考案し、採用され、キャラクター化された（名称「ロベレニくん」）。
- ・ 現在、八丈町では公式 SNS アカウントにおいてこのキャラクターを活用し、様々な情報を発信している。

### 〈八丈島の主要な産業の一例〉



フェニックス・ロベレニー

- ・ フェニックス・ロベレニーは八丈島の園芸の中で最も生産量が多く、主要な産業の一つであるが、後継者不足が課題となっている。
- ・ 八丈島の産業の中で、八丈分教室の生徒が就労可能な業種について、今後検討していく。

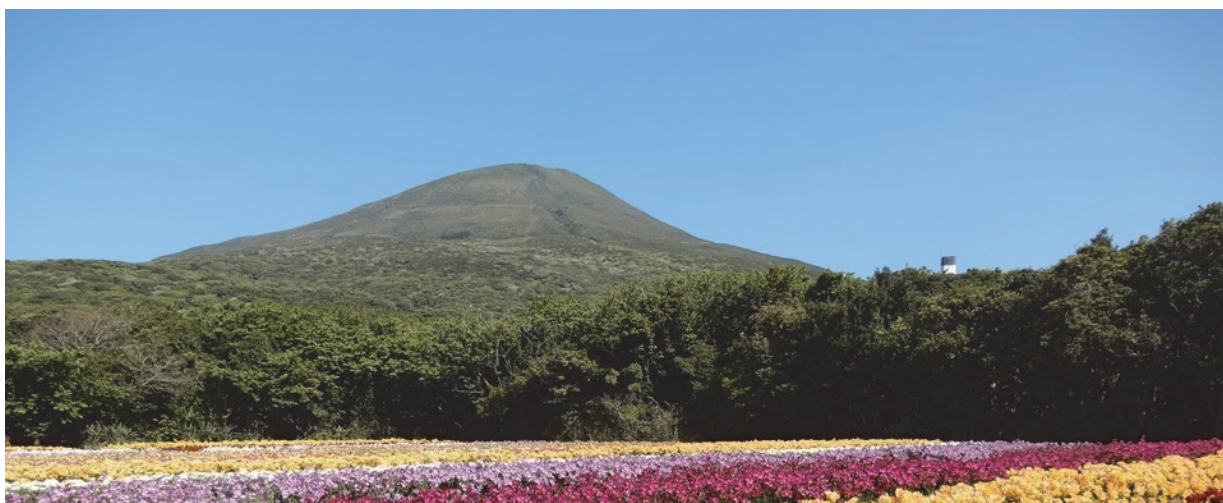
## 2 八丈分教室モデル事業の検証報告

以上を踏まえ、あり方検討委員会では、東京都特別支援教育推進計画（第二期）第二次実施計画に記載されている「分教室における特色ある教育内容」と「適切な規模の在り方」を主要課題として、八丈分教室モデル事業の効果検証を行った。

主要課題の一つ目、「分教室における特色ある教育内容」については、障害のある子供たちが自己の生活する地域において引き続き教育の機会が得られるようになったこと、八丈高等学校との交流及び共同学習において多様性や共生社会の理解促進につながっていること、島内関係機関との連携により充実した就業体験・産業現場等における実習等ができていることなどから、十分な特色が発揮されていることが確認された。

主要課題の二つ目、「適切な規模の在り方」については、引き続き八丈高等学校と連携し日常的な集団学習を補完するとともに、現在と同程度の集団による教育活動を維持していくことにより、同学年及び異学年の生徒との交流等を通じて、適切な規模による教育が安定的に継続できることが確認された。

以上の検証結果を踏まえ、あり方検討委員会としては、青鳥特別支援学校八丈分教室を、令和6年度以降モデル事業の継続ではなく正式に分教室として位置付けることを提言する。



第  
1  
章

第  
2  
章

第  
3  
章

第  
4  
章

參  
考  
資  
料



## 第4章

# 島しょ地域における分教室設置の考え方



## 1 検討の視点

八丈分教室モデル事業を通じて得られた知見を踏まえ、今後の島しょ地域における分教室設置の考え方を検討する。島しょ地域という地理的条件を踏まえた上で、検討の視点として、以下の5点を考慮する。

### (1) 学習環境

これまで東京都教育委員会が所管する分教室は、特別支援学校内<sup>※11</sup>あるいは病院内<sup>※12</sup>や療育センター内<sup>※13</sup>に設置してきた。しかし、島しょ地域の場合、施設に限りがあるため、後期中等教育を行う分教室は、同じ教育機関である高等学校内に設置することが有効である。

また、高等学校とは教育活動において連携することが重要である。分教室の生徒と高等学校の生徒が普段から交流及び共同学習の場を持つことは、多様性や共生社会への理解促進につながり、両校の生徒たちの成長に大きく寄与することが今回のモデル事業から実証されている。

施設面からは、分教室が専用として使用できる教室として学級数と同数の普通教室仕様のホームルーム教室と作業学習用実習室があること及び高等学校の週時程を考慮しながら特別教室を共用することについて検討することが望ましい。

### (2) 集団による教育活動

集団による学習により個々の社会性等を伸長していくという観点からは、一定の規模の生徒集団は必須である。

今回のモデル事業では高等学校との交流及び共同学習を通じ、日常的な集団学習を補完できることが確認された。ただし、通常の教科学習や作業学習においても、生徒間の学び合いや関わりにおいて集団による教育活動は重要な意義を持つ。また、分教室の継続性の観点からは、設置後数年間にわたり複数人の生徒入学が見込まれることが必要である。

※11 聴覚障害特別支援学校の分教室として都内3校の特別支援学校内に三つの分教室を設置

※12 病弱教育の取組として都内5病院内に五つの分教室を設置

※13 肢体不自由特別支援学校の分教室として都内4療育センター内に四つの分教室を設置

そのため、集団による教育活動の観点からは、高等学校内併設により高等学校生徒との日頃からの交流機会が確保されていることを条件として、1学年に複数人の生徒の入学が見込まれ、少なくともその状態が3年以上継続し、全学年に学級を設置することが想定される場合において、適切な教育活動が確保されると考える。

### (3) 教職員体制

島しょ地域に設置する分教室では、進路指導や教育相談のみならず、あらゆる対外的な交渉の場面で、特別支援学校としての特別支援教育に関する専門性や島の地域性を踏まえた高度な判断が日常的に求められる。また、教員の人事管理やサービス監督の観点からも、管理職の存在は欠かせない。そのため、専門性のある管理職である副校長の配置は必須である。

教員には、特別支援教育に対する知識はもとより、島の限られた環境の中でも力を発揮できる円滑なコミュニケーション能力及び前向きなチャレンジ精神が必要条件である。分教室の教員については、適材適所を考慮した人員配置が求められる。

また、教育課程の中で15程度の教科等の設定が必要なことや、ほかにも校務分掌があることを考慮すると、ある程度の教員数を確保することが望ましい。

なお、開設当初は少人数の教員での運営が想定されるため、業務分担や学習指導の支援等で、本校との連携を密にしていくことが重要である。

経営企画室には、庶務事務等を行う分教室所属の都立学校経営企画室支援員（会計年度任用職員）を配置し、特別支援学校に特有な業務の円滑な遂行につなげていく。

### (4) 継続設置による連続性

分教室が一つの学校として島に根付いていくためには、島それぞれ独自の文化やコミュニティと息の長い関係を築いていく必要がある。継続的に分教室を運営していくためには、進路指導で実績を上げるなど分教室の認知度を高め、島内外から認められる存在にならなければならない。

分教室の継続的な設置による連続性の確保、そのためには、生徒や保護者から選ばれる学校となるよう、分教室の魅力向上と効果的な広報が求められる。

## (5) 特別支援教育のセンター的機能

分教室は設置された島内において、特別支援教育の中核的な役割を担うことが期待されている。特に小・中学校に在籍する障害のある児童・生徒について、通常の学級に在籍する児童・生徒を含め、その教育的ニーズに応じた適切な教育を提供していくため、分教室が、教育上の高い専門性を生かしながら島内の小・中学校を支援していくことが求められる。

島内の小・中学校教員への支援や特別支援教育に関する相談・情報提供等、分教室は特別支援教育のセンター的機能を発揮することが重要である。

## 2 今後の島しょ地域における分教室設置の考え方

以上の視点を踏まえ、あり方検討委員会として、島しょ地域における知的障害教育部門・高等部の特別支援学校分教室設置に関する考え方を、次のとおり整理する。

- I 既設の高等学校との併設により、適切な学習環境を整えることができること。
- II 併設する高等学校と分教室が、教職員や施設面等において、相互理解の下、円滑な協力関係を構築できること。
- III 設置後数年間にわたり1学年に複数人の生徒入学があり、全学年に学級を設置することが継続的に見込まれること。

今後島しょ地域において分教室設置を計画する際には、上記の考え方を一つの目安として、検討されるよう提言する。

なお、分教室開設後、生徒数が全学年を通し一人もいなくなった場合には、翌年度以降の生徒入学数の見込みを考慮した上で休室を検討する。また、分教室の再開については、上記の設置の考え方に基づき判断する。

島しょ地域に特別支援学校の分教室を設置することは、障害のある子供たちが生まれ育った地域において引き続き教育が受けられるという面で多様な学びの場の創出につながる。また、設置する高等学校と交流及び共同学習の場を設けることで多様性や共生社会の理解促進につながり、インクルーシブな教育を推進する上でも大きな効果が期待できる。

しかしながら、新たな分教室を設置し継続していくためには、高等学校等関係機関との日々の連携や教職員体制の整備、一定の集団による教育活動の維持等考慮すべき事項がある。

以上の点を踏まえつつ、島しょ地域における特別支援学校分教室の新規設置については、本委員会での提言を参考に慎重に検討していくことが重要である。

第  
1  
章

第  
2  
章

第  
3  
章

第  
4  
章

參  
考  
資  
料

# 參考資料



## 資料1 八丈分教室モデル事業に係るアンケート調査

### (1) 調査の目的

八丈分教室及び八丈高等学校の生徒、保護者並びに教職員を対象にアンケート調査を行い、八丈分教室設置における成果と課題等を明らかにすることで、八丈分教室モデル事業検証の判断材料とする。

### (2) 調査概要

#### ア 調査対象・回答状況

| 対象者                                      | 対象者数 | 回答者数 | 回答率  |
|--|------|------|------|
| I 八丈分教室生徒                                | 7人   | 7人   | 100% |
| II 八丈分教室生徒保護者                            | 7人   | 6人   | 86%  |
| III 八丈分教室教員                              | 7人   | 7人   | 100% |
| IV 八丈高等学校（全日制）生徒                         | 132人 | 108人 | 82%  |
| V 八丈高等学校（全日制）生徒保護者                       | 120人 | 70人  | 58%  |
| VI 八丈高等学校教員                              | 41人  | 40人  | 98%  |
| VII 八丈高等学校経営企画室職員<br>（八丈分教室経営企画室支援員を含む。） | 11人  | 11人  | 100% |
| 合計                                       | 325人 | 249人 | 77%  |

#### イ 実施時期

令和5年6月～7月

#### ウ 調査の方法

Microsoft Forms を利用した Web アンケート形式

八丈分教室生徒へは、アンケート用紙を用い、教員付添いにより実施



## エ 調査の視点

### ① 八丈分教室での学習

八丈分教室での学習は生徒の満足度を高めたか。保護者の負担軽減につながったか。

### ② 八丈高等学校との交流・連携

八丈分教室と八丈高等学校の生徒が、同じ場所で共に学ぶことで、同世代の生徒とのつながりを強めることができたか。

### ③ 理解啓発の促進

八丈分教室の設置が、島内での障害者への理解促進につながったか。

### ④ 八丈分教室の魅力向上

3年間のモデル事業を通じ、八丈分教室の認知度が上がったか。

### ⑤ 島内企業等との連携

就業体験や産業現場等における実習を通じ、生徒の進路先の拡大につながったか。

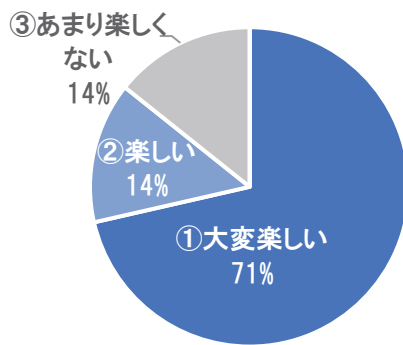
## オ 主な意見について

一部抜粋し語尾を修正しているが、基本的に原文のまま掲載

### (3) 調査の結果

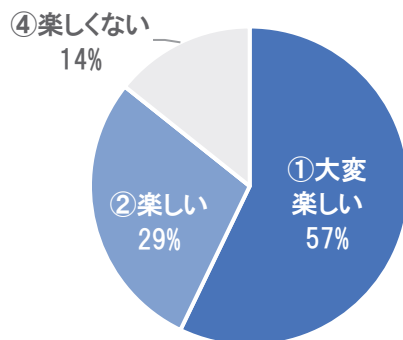
#### I 八丈分教室生徒アンケート調査結果（回答7人）

問1 八丈分教室の勉強は楽しいですか。



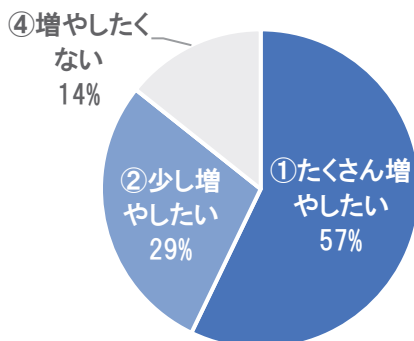
|           |    |     |
|-----------|----|-----|
| ①大変楽しい    | 5人 | 71% |
| ②楽しい      | 1人 | 14% |
| ③あまり楽しくない | 1人 | 14% |
| ④楽しくない    | 0人 | 0%  |

問2 八丈高等学校の生徒と一緒に活動（授業、体育祭、宿泊行事等）することは楽しいですか。



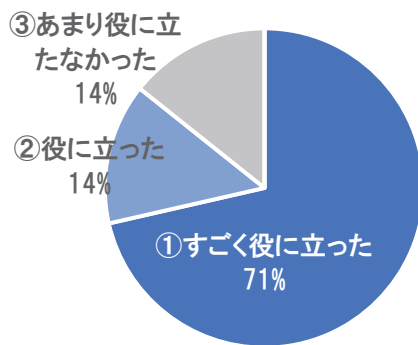
|           |    |     |
|-----------|----|-----|
| ①大変楽しい    | 4人 | 57% |
| ②楽しい      | 2人 | 29% |
| ③あまり楽しくない | 0人 | 0%  |
| ④楽しくない    | 1人 | 14% |

問3 八丈高等学校の生徒と一緒に過ごす時間を増やしたいですか。



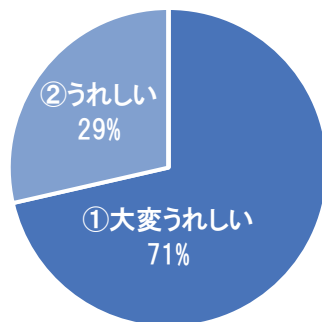
|             |    |     |
|-------------|----|-----|
| ①たくさん増やしたい  | 4人 | 57% |
| ②少し増やしたい    | 2人 | 29% |
| ③あまり増やしたくない | 0人 | 0%  |
| ④増やしたくない    | 1人 | 14% |

問4 八丈島での職場見学や就業体験、産業現場等における実習は自分の将来を考えるときの役に立ちましたか。



|               |    |     |
|---------------|----|-----|
| ① すごく役に立った    | 5人 | 71% |
| ② 役に立った       | 1人 | 14% |
| ③ あまり役に立たなかった | 1人 | 14% |
| ④ 役に立たなかった    | 0人 | 0%  |

問5 八丈島で学習できてうれしいですか。



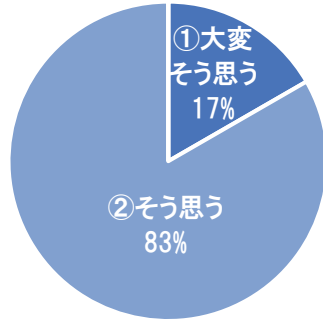
|             |    |     |
|-------------|----|-----|
| ① 大変うれしい    | 5人 | 71% |
| ② うれしい      | 2人 | 29% |
| ③ あまりうれしくない | 0人 | 0%  |
| ④ うれしくない    | 0人 | 0%  |

## 考察

- 八丈分教室での勉強について、ほぼ全員の生徒が楽しいと感じている。
- 八丈高等学校との交流については、ほぼ全員の生徒が楽しいと感じており、交流時間も増やしたいと考えている。
- 将来の就職につながる就業体験等については、ほぼ全員が役に立ったと感じている。
- 生徒全員が八丈島で学習できてうれしいと回答しており、生まれ育った島、自然環境の良い島で学習できることに満足していることが伺える。

## II 八丈分教室生徒保護者アンケート調査結果（回答6人）

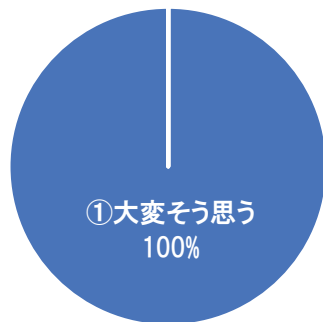
問1 八丈分教室の学習は、お子様の教育的ニーズに応じた内容だと思いますか。



|          |    |     |
|----------|----|-----|
| ①大変そう思う  | 1人 | 17% |
| ②そう思う    | 5人 | 83% |
| ③あまり思わない | 0人 | 0%  |
| ④思わない    | 0人 | 0%  |

問2 （以前から島内に住まれていた方への質問）

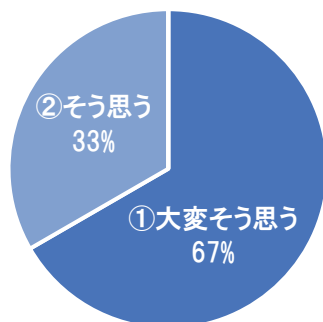
島外の寄宿舍に入ることと比べ、島内に八丈分教室ができたことは、ご自身の負担軽減につながりましたか。



|          |    |      |
|----------|----|------|
| ①大変そう思う  | 3人 | 100% |
| ②そう思う    | 0人 | 0%   |
| ③あまり思わない | 0人 | 0%   |
| ④思わない    | 0人 | 0%   |

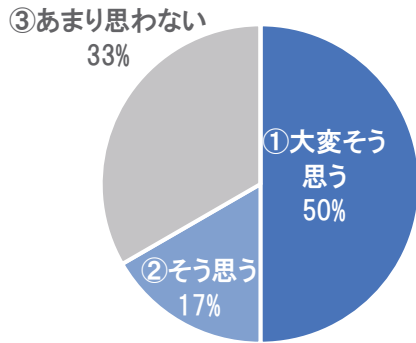
問3 （島外から移住された方への質問）

八丈島に分教室ができたことが、離島への転居を検討する際の決め手の一つとなりましたか。



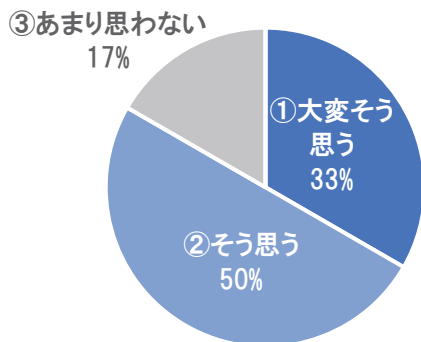
|          |    |     |
|----------|----|-----|
| ①大変そう思う  | 2人 | 67% |
| ②そう思う    | 1人 | 33% |
| ③あまり思わない | 0人 | 0%  |
| ④思わない    | 0人 | 0%  |

問4 八丈分教室は、島内の同世代の友人とのつながりを強めるための学校生活となっていると思いますか。



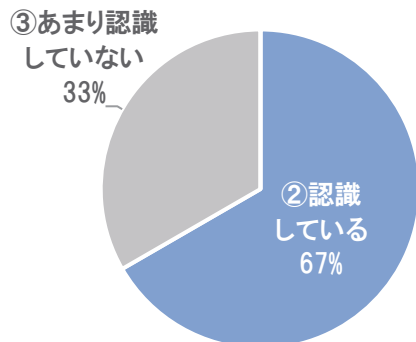
|          |    |     |
|----------|----|-----|
| ①大変そう思う  | 3人 | 50% |
| ②そう思う    | 1人 | 17% |
| ③あまり思わない | 2人 | 33% |
| ④思わない    | 0人 | 0%  |

問5 八丈分教室での進路指導は、お子様の将来を考える上で役に立っていると思いますか。



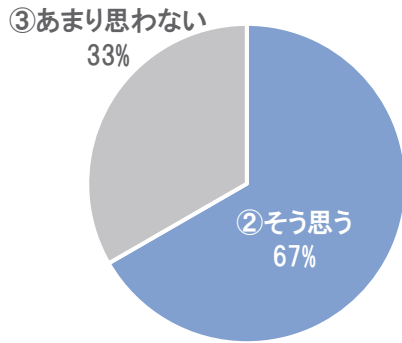
|          |    |     |
|----------|----|-----|
| ①大変そう思う  | 2人 | 33% |
| ②そう思う    | 3人 | 50% |
| ③あまり思わない | 1人 | 17% |
| ④思わない    | 0人 | 0%  |

問6 八丈島に八丈分教室があることを、島内の方は認識していると思いますか。



|             |    |     |
|-------------|----|-----|
| ①十分認識している   | 0人 | 0%  |
| ②認識している     | 4人 | 67% |
| ③あまり認識していない | 2人 | 33% |
| ④認識していない    | 0人 | 0%  |

問7 八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



|          |    |     |
|----------|----|-----|
| ①大変そう思う  | 0人 | 0%  |
| ②そう思う    | 4人 | 67% |
| ③あまり思わない | 2人 | 33% |
| ④思わない    | 0人 | 0%  |

問8 その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。  
(主な意見)

- ・ 島内で学習や仕事に関する経験が積める事はとても有り難い。
- ・ 島内の色々な行事に生徒、教員、保護者が参加することで八丈分教室を知ってもらえると思う。
- ・ 八丈分教室は少人数のため、八丈高等学校の生徒と共にイベント等が実施できると集団行動が身に付き同時に交流も深まる。
- ・ 格技棟だけでなく教室棟と管理棟をより多く活用できると生徒のモチベーションが上がるとともに刺激になり、成長につながる。
- ・ 八丈分教室の特性から島でできるタスクも素敵だが、沢山のミッションを与えて色々な経験をさせたい。

## 考察

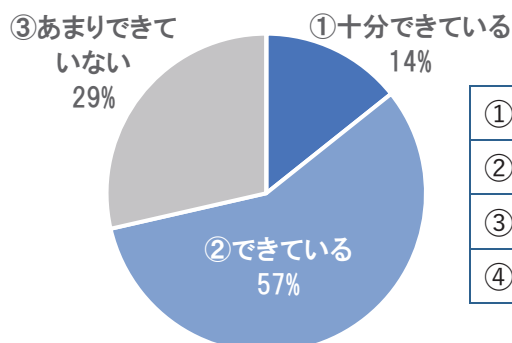
- 保護者全員が、八丈分教室での学習が子供の教育的ニーズに応じた内容になっていると感じている。
- 島内に八丈分教室が設置されたことは、保護者の負担軽減に大きくつながっている。
- 八丈分教室の設置が島への移住のきっかけとなっている。
- 同世代とのつながりの面では、約7割の保護者がその効果を感じている。
- 一方で約3割の保護者は同世代とのつながりがあまり強まっていないと回答している。これは、コロナ禍の特殊な環境下で両校の交流活動が想定よりも制限されたことが影響していると考えられる。今後は八丈高等

学校との交流・連携についてより綿密な実施計画が求められる。

- 進路指導の面ではほぼ全員の保護者が役に立っていると感じている。
- 八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では、約7割の保護者においてはその効果を感じているが、残り3割の保護者からはあまり効果を感じられていないとの回答であった。この質問は間接的な印象を尋ねていることに注意が必要ではあるが、八丈分教室の効果的なPRは引き続き必要である。

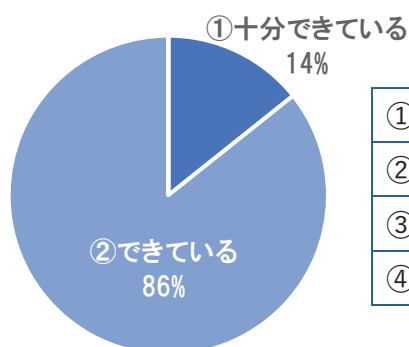
### Ⅲ 八丈分教室教員アンケート調査結果（回答7人）

問1 八丈分教室では生徒のニーズに沿った教育ができているとお考えですか。



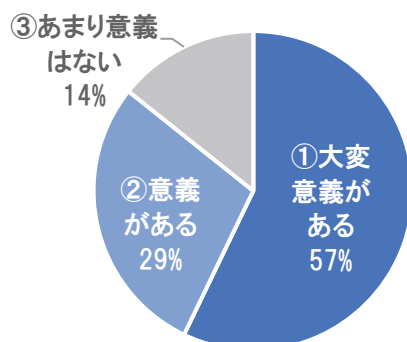
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分できている   | 1人 | 14% |
| ②できている     | 4人 | 57% |
| ③あまりできていない | 2人 | 29% |
| ④できていない    | 0人 | 0%  |

問2 八丈分教室の生徒と八丈高等学校の生徒の交流活動（内容や回数、頻度）は十分できていると思いますか。



|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分できている   | 1人 | 14% |
| ②できている     | 6人 | 86% |
| ③あまりできていない | 0人 | 0%  |
| ④できていない    | 0人 | 0%  |

問3 八丈分教室の生徒にとって八丈高等学校の生徒との交流は、教育上意義のあるものだと思いますか。



|           |    |     |
|-----------|----|-----|
| ①大変意義がある  | 4人 | 57% |
| ②意義がある    | 2人 | 29% |
| ③あまり意義はない | 1人 | 14% |
| ④意義はない    | 0人 | 0%  |

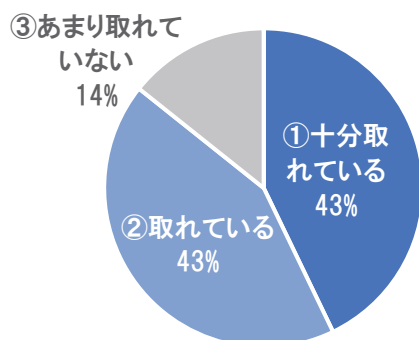


問4 問3に関連して、どのような教育上の意義があると思いますか。

(主な意見)

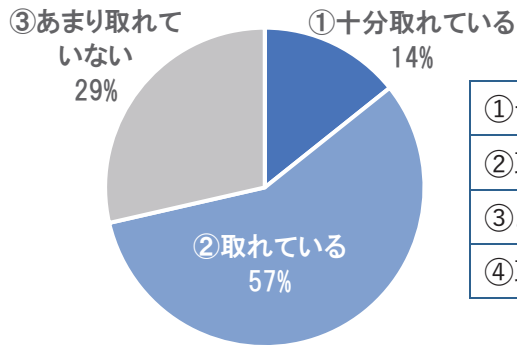
- ・ 「あの先輩のようになりたい」と、交流の中でモデルになる生徒に出会い、それが実際に生活や学習の励みになっている。特に体育祭では、応援してもらったり励まされたりすることが「がんばろう」という原動力や自信につながっている。
- ・ 多様性の尊重が求められる今とこれからの社会において、八丈高等学校の生徒と八丈分教室の生徒が日々の学校生活上で関わり合うことは、両校の生徒にとって多くの良い刺激がある。一例だが八丈高等学校の生徒は合理的配慮や、障害のある人への接し方や理解を深められ、八丈分教室の生徒は適切な支援の下、八丈高等学校の生徒や教員と授業や行事を一緒に行うことができる。インクルーシブな教育の実現・充実を目指すには理想的な環境であると考えている。
- ・ 生徒たちにとって、相互理解や共生社会への意識を高めることができている。
- ・ 同じ地域に住む同年代の生徒との関わりがあり、共生社会の実現が図られている。
- ・ 障害の有無を問わず、同年代との関わりが少ない八丈分教室の生徒にとって有意義であると思う。
- ・ 集団の中で、協力し合う気持ちや自分を表現する力が育っている。

問5 八丈分教室と八丈高等学校の教員は十分な連携が取れていると思いますか。



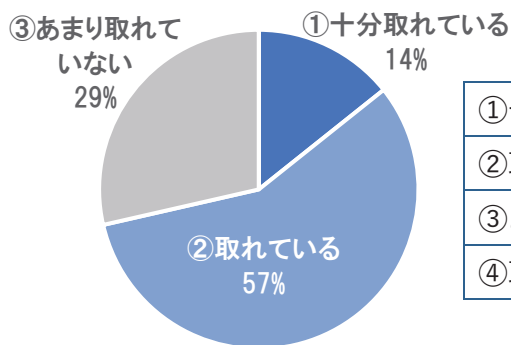
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分取れている   | 3人 | 43% |
| ②取れている     | 3人 | 43% |
| ③あまり取れていない | 1人 | 14% |
| ④取れていない    | 0人 | 0%  |

問6 八丈分教室と本校の青鳥特別支援学校とは十分な連携が取れていると思いますか。



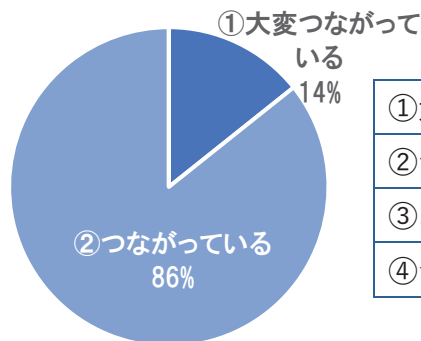
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分取れている   | 1人 | 14% |
| ②取れている     | 4人 | 57% |
| ③あまり取れていない | 2人 | 29% |
| ④取れていない    | 0人 | 0%  |

問7 八丈分教室と島内の役場や支庁等関係機関とは十分な連携が取れていると思いますか。



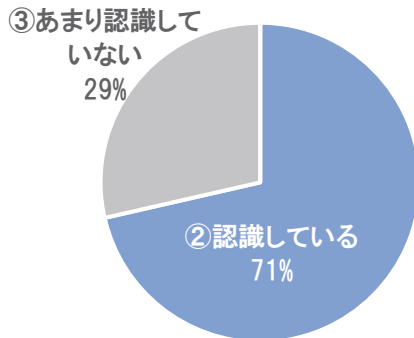
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分取れている   | 1人 | 14% |
| ②取れている     | 4人 | 57% |
| ③あまり取れていない | 2人 | 29% |
| ④取れていない    | 0人 | 0%  |

問8 就業体験や産業現場等における実習は生徒の進路先の拡大や充実につながっていると思いますか。



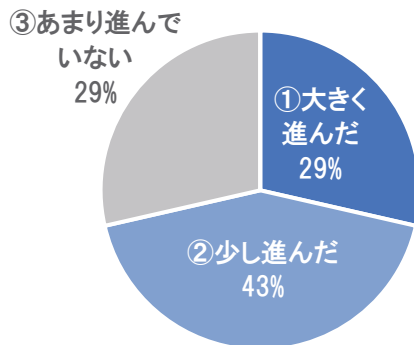
|              |    |     |
|--------------|----|-----|
| ①大変つながっている   | 1人 | 14% |
| ②つながっている     | 6人 | 86% |
| ③あまりつながっていない | 0人 | 0%  |
| ④つながっていない    | 0人 | 0%  |

問9 八丈島に八丈分教室があることを、島内の人々は認識していると思いますか。



|             |    |     |
|-------------|----|-----|
| ①十分認識している   | 0人 | 0%  |
| ②認識している     | 5人 | 71% |
| ③あまり認識していない | 2人 | 29% |
| ④認識していない    | 0人 | 0%  |

問10 八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①大きく進んだ    | 2人 | 29% |
| ②少し進んだ     | 3人 | 43% |
| ③あまり進んでいない | 2人 | 29% |
| ④進んでいない    | 0人 | 0%  |

問11 離島の分教室での教育について、内地と比べ良い点、または難しい点を教えてください。(主な意見)

〈良い点〉

- ・ 自然豊かな環境で伸び伸びと学習できる。
- ・ 少人数なので、丁寧な指導、個に応じた指導ができる。
- ・ 八丈高等学校と連携して行事ができる。
- ・ 島民と協力して教育活動ができる（作業販売等）。
- ・ 高等学校の中に学校があるため、八丈高等学校の生徒と顔を合わせ、関わる機会が多い。
- ・ 柔軟な教育活動を計画できる。
- ・ 教えたことのない教科を担当することも多いが、八丈高等学校の専科の教員の連携を得て、教材開発や授業展開ができています。

**〈難しい点〉**

- ・ 開拓中であるが通所先や就労先が少ない。
- ・ 障害者雇用に関して、島内の企業や公共機関の理解促進については、今後も課題と感じる。
- ・ 就労移行支援の事業所がないため、軽度の知的障害の生徒の進路選択が限られてくる。
- ・ 福祉サービスが行き届いていないところがあるので、学校と家庭以外での居場所が少ない。
- ・ 専門家との連携を持ちにくい。言語聴覚士、作業療法士、理学療法士等の専門家との定期的な連携ができると、生徒たちの将来が更に良くなる。
- ・ 島内に特別支援学校の小・中学部がないことで、基礎的な生活力等の土台形成が十分でないことがある。
- ・ 生徒数が少ないため、集団生活で身に付けるべき社会性を育てることが難しい。
- ・ 生徒にとってのロールモデルが少なく、目標とする姿をイメージしにくい。
- ・ 公共交通機関が少なく一人通学が難しい。
- ・ 目が届きすぎて、過保護になりがち。
- ・ 内地の学校と異なる環境で、既成概念にとらわれない発想が求められるため、意欲やバイタリティーがない教員は厳しい。

**問 12 その他、八丈分教室に対してご意見等ありましたらご記載ください。****(主な意見)**

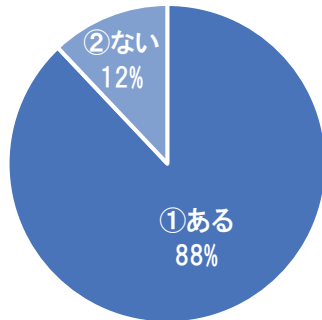
- ・ 末永く八丈分教室が続いていくよう努力していく。
- ・ 専門教科以外を担当する場合があるため、本校の専門教科担当教員から教材や指導について助言がもらえると有り難い。
- ・ 格技棟を教室としているため、風雨時の音が学習の妨げとなることがある。
- ・ 職員室と教室とが離れているため、業務の効率化が図りにくい。

## 考 察

- 八丈分教室での学習について、多数の教員が生徒のニーズに沿った教育ができているとしている一方で、あまりできていないと感じている教員もいる。これは、コロナ禍といった特殊な環境下で教育活動が制限される場面があったことから、生徒のニーズに十分対応できなかつたと感じている教員がいることが考えられる。
- 八丈高等学校との交流については、教員全員が十分な活動ができていると考えている。
- 八丈高等学校の生徒との交流の意義については、多様性の尊重や共生社会の実現、インクルーシブな教育の視点からの声が多く挙げられた。また、集団学習の効果に触れる意見もあった。
- 八丈高等学校や八丈町役場等の関係機関との連携については、ほとんどの教員が十分取れていると回答する一方で、あまり取れていないと感じている教員もいる。対外的な調整は副校長が主として担っているが、八丈分教室全体としても関係機関との連携の強化が求められる。
- 就業体験や産業現場等における実習に関して、教員全員が生徒の進路先の拡大や充実につながっていると考えている。
- 八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では、約7割の教員が効果を感じているが、あまり効果が見られないと考えている教員もいる。いずれも間接的な印象ではあるが、八丈分教室の効果的なPRは引き続き必要である。
- 離島ならではの教育の良さについては、自然環境の良さと個に応じた丁寧な指導、柔軟な教育活動等が挙げられている。
- 一方で、離島であることの難しい点としては、通所先や就労先の少なさが多く指摘され、課題として捉えられている。企業就労のみならず、福祉就労やオンラインを活用した就労等、多様な就労形態を関係機関とも連携しながら引き続き検討していく。
- 自由意見としては、施設面での要望等が挙げられている。今後、両校の週時程を調整しながら、八丈高等学校教室棟の使用回数を増やす工夫等を検討していくことが大切である。

## IV 八丈高等学校（全日制）生徒アンケート調査結果（回答 108 人）

問1 八丈分教室の生徒と一緒に活動（授業、体育祭、宿泊行事等）をしたことがありますか。

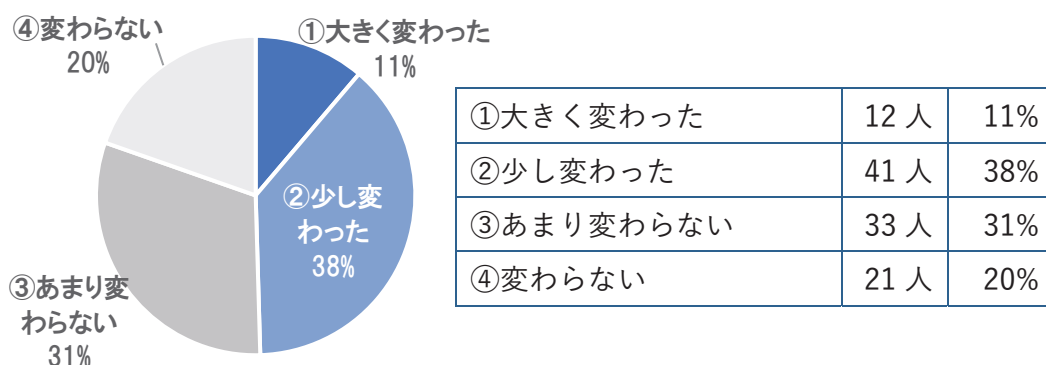


|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| ①ある | 95人 | 88% |
| ②ない | 13人 | 12% |

問2 「ある」と答えた人で、一緒に活動したことで、特に記憶に残っていることは何ですか。（主な意見）

- ・ 体育祭でとても楽しそうに踊っていたこと、同じチームで取り組んだこと、一緒にテントの準備をしたことなど体育祭関連（63人）
- ・ 授業でサーターアンダギーとタコライスと一緒に作ったこと。
- ・ 書道の授業で作品を作ったこと。
- ・ 1年生の頃のオリエンテーションで楽しそうに活動していたこと。
- ・ 校外学習で興味を持つものの違いにより新しい発見ができたこと。
- ・ 八丈高等学校の生徒と一緒に楽しそうにできて嬉しかった。
- ・ 文化祭（八高祭）
- ・ 修学旅行
- ・ 宿泊防災
- ・ 茶道部
- ・ フリスビー
- ・ ボッチャ
- ・ 学校見学

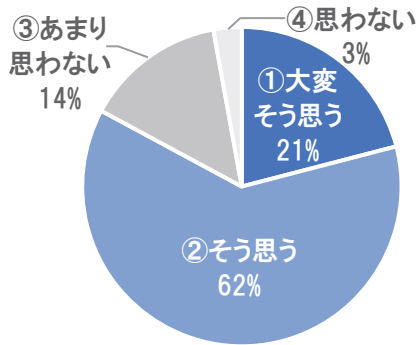
問3 八丈分教室が設置されたことによって、障害に対する意識が以前と比べて変化しましたか。



問4 八丈分教室の生徒とは今後どのような交流をしたいと思いますか。  
(主な意見)

- ・ 八丈分教室の生徒が安心してできる交流を増やしていくといい。
- ・ 八丈分教室の生徒がやりやすいもので交流したい。
- ・ 障害がある人とでも一緒に楽しめるような交流が沢山できるといい。
- ・ 互いに楽しめるような活動をして、理解を深め交流していきたい。
- ・ 観察等多角的な視点が必要な授業での交流
- ・ 体育祭や文化祭（八高祭）等の行事
- ・ 校外学習や交流会
- ・ 普段の授業
- ・ 特別な授業のときに一緒に受ける。
- ・ 茶道部と交流したい。
- ・ 園芸のデザイン(押し花等)をやってみたい。
- ・ 行事等でたくさん交流したい。

### 問5 八丈高等学校に八丈分教室が設置されて、良かったと思いますか。



|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| ①大変そう思う  | 22人 | 21% |
| ②そう思う    | 65人 | 62% |
| ③あまり思わない | 15人 | 14% |
| ④思わない    | 3人  | 3%  |

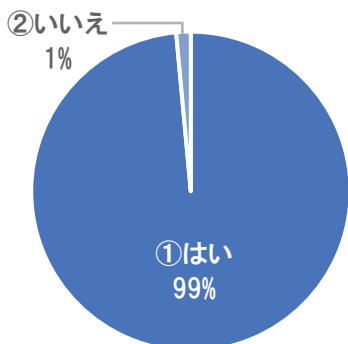
### 考察

- 八丈高等学校の生徒約9割が八丈分教室の生徒と一緒に活動したことを認識しており、特に印象に残っている活動として63人の生徒が体育祭を挙げている。一緒に準備をしたこと、同じチームとして力を合わせたこと、楽しく踊ったことなどが好意的な意見として多く寄せられた。
- 八丈分教室が設置されたことによる障害に対する意識の変化については、約半数が変わったと答えているが、残りの半数はあまり変わらない又は変わらないとの意見であった。これは、従来から島内にある障害者支援施設の認知度が高く、日常的な交流を通じて既に障害に対する理解を身に付けているため、意識は変わらないと回答したことも考えられる。
- 今後どのような交流をしたいかという問いに対し、八丈分教室の生徒が安心してできる交流、一緒に楽しめるような交流、互いに理解の深まる交流等、八丈分教室の生徒を思いやった回答が多数見受けられた。
- 八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことについては、8割を超える生徒が良かったと感じており、両校の交流について大きな成果を見て取ることができた。
- なお、2割弱の生徒が八丈高等学校に八丈分教室が設置されたことをあまり良く思わない又は思わないと回答している。一部には八丈分教室の生徒と一緒に活動したことはないと回答している生徒もいることから、今後はより多くの八丈高等学校の生徒と交流できる活動を考え、共生社会や多様性への理解を学校全体として深めていくことが重要である。



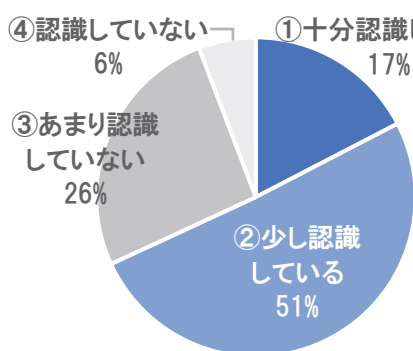
V 八丈高等学校（全日制）生徒保護者アンケート調査結果（回答70人）

問1 貴校に特別支援学校の分教室が設置されたことをご存じですか。



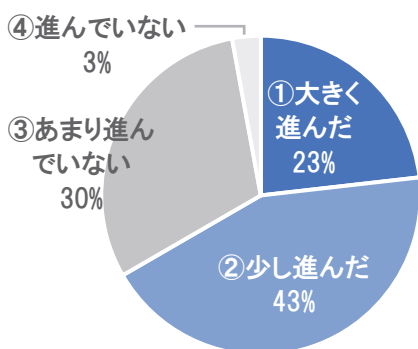
|      |     |     |
|------|-----|-----|
| ①はい  | 69人 | 99% |
| ②いいえ | 1人  | 1%  |

問2 八丈島に八丈分教室があることを、島内の人々は認識していると思いますか。



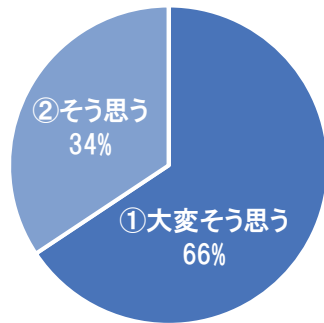
|             |     |     |
|-------------|-----|-----|
| ①十分認識している   | 12人 | 17% |
| ②少し認識している   | 36人 | 51% |
| ③あまり認識していない | 18人 | 26% |
| ④認識していない    | 4人  | 6%  |

問3 八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



|            |     |     |
|------------|-----|-----|
| ①大きく進んだ    | 16人 | 23% |
| ②少し進んだ     | 30人 | 43% |
| ③あまり進んでいない | 21人 | 30% |
| ④進んでいない    | 2人  | 3%  |

問4 問1で「はい」と答えた方で、八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことは良かったと思いますか。



|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| ①大変そう思う  | 44人 | 66% |
| ②そう思う    | 23人 | 34% |
| ③あまり思わない | 0人  | 0%  |
| ④思わない    | 0人  | 0%  |

問5 その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。  
(主な意見)

- ・ モデル事業とはいえ、設置されると聞いたときはとても喜んだ。中学卒業後、親元を離れずに学校に通えることは島しょ地域にとって画期的なことである。
- ・ 今まで障害のある子で高等学校に進学したい場合、八丈島から離れなければならなかった。そのためには親元から離れる事は必然で、実現が難しかったり、将来への選択肢が少なかったりしたと思う。八丈分教室ができたことで、子供たちや保護者の未来が拓けたように感じる。障害のある子供たちが、八丈島でも高等学校へ進学できる環境を保ち続けて欲しい。
- ・ 八丈高等学校内に設置されたことで、同世代の子供の保護者の理解が進んだことが大きかった。今後も双方の学校間と、保護者間も含めて理解を深め、遠慮なく語り合っていく姿勢でいけたらと思う。そのことが地域に根ざすことにつながる。
- ・ 体育祭が合同でできてよかった。格技棟に飾ってある作品も素敵だと思う。
- ・ 障害のある生徒の選択肢が広がったことは今後の八丈島にとって大きな成果だと思う。
- ・ 現在の社会において、障害のある人との交流もさることながら、障害のある人から学ぶ事も多く、八丈高等学校の生徒の大きな財産になっていると思う。八丈分教室の大きな意味を感じる。八丈島からの発信で各地に分教室ができることを期待する。

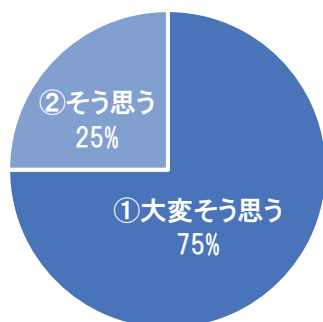
- ・ 子供には保育園から一緒に過ごしている友達がいる、今は小学校の特別支援学級に通っている。中学校は離れるが、高等学校で再会できる楽しみが増える。何よりも島に八丈分教室があるおかげで兄弟や家族がバラバラにならずに過ごせる事が一番良い事だと思う。
- ・ 障害のある子はもちろん、その家族にも夢と希望ができ、嬉しい事だと思う。
- ・ 普段なかなか生徒の学校生活を見られないので、運動会等で協力しながら活動している姿を見る事ができることは良いことだと思う。
- ・ 体育祭のとき、八丈高等学校の生徒が教えながら整列や体操をしていた。島民にはもっと生徒たちの交流を見てもらいたい。素晴らしいことである。
- ・ 体育祭のとき、リレーだけは別枠での参加にしてあげないと全日制の生徒が頑張りきれないと感じた。文化祭等は一緒にいい。一生懸命学校生活を楽しんでもらえればと応援している。
- ・ 八丈分教室があるのは大賛成だが、体育祭で八丈高等学校の生徒と一緒に得点に関わる競技に出るのは違うと思う。八丈高等学校の生徒の事も尊重して欲しい。

## 考 察

- 八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では約7割の保護者が効果を感じている一方で、約3割の保護者はあまり効果を感じていないとの回答であった。今後更に島民に広く認知されるよう、八丈分教室のPRは引き続き必要である。
- 八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことは、全ての保護者が良かったと感じている。
- 自由意見では、八丈分教室ができたことによる好意的な意見が多く、障害のある生徒の選択肢が増えたことや、島内で一緒に暮らせること、保護者の負担が軽減されたことなどが挙げられている。
- また、八丈高等学校の生徒が八丈分教室の生徒から学ぶことが多いことも示されていることから、両校の交流が共生社会の実現に向けた教育につながっていると考えることができる。
- 体育祭については、八丈高等学校側の負担とならないよう、合同実施する競技を慎重に選択することが大切である。

## VI 八丈高等学校教員アンケート調査結果（回答 40 人）

問1 八丈高等学校の生徒にとって八丈分教室の生徒との交流は、教育上意義のあるものだと思いますか。



|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| ①大変そう思う  | 30人 | 75% |
| ②そう思う    | 10人 | 25% |
| ③あまり思わない | 0人  | 0%  |
| ④思わない    | 0人  | 0%  |

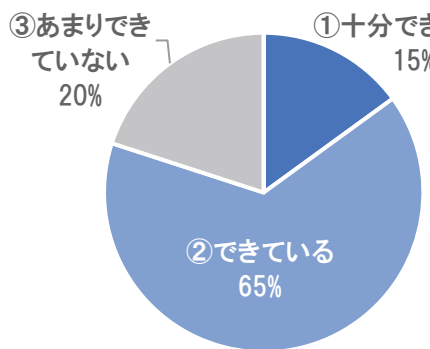
問2 問1に関連して、どのような教育上の意義があると思いますか。

（主な意見）

- ・ 活動を見ていると、八丈高等学校の生徒が積極的に声掛けをしたりフォローに努めたりするなど、自主的にサポートする姿が見受けられ、助けが必要な人への思いやりの心が培われているように感じられた。また、八丈分教室の生徒は八丈高等学校の生徒に刺激を受けて積極的に活動に取り組む姿が見受けられ、良い化学反応が起きていると思う。
- ・ 周囲の人と助け合ったり、互いの特性に理解を深めたりすることができると思う。八丈高等学校の生徒にとって自然な形でインクルーシブな教育ができています。
- ・ 体育祭の競技について生徒の配慮や工夫が見られ、多様性の理解や「優しさ」を育てていると思う。インクルーシブな教育として意義深い。
- ・ 社会が共生社会化していく中で、学校でも特別な支援を必要とする生徒と一緒に過ごせることは良い。何か物事を考えるときに特別な支援を必要とする人ならどう思うだろうという視点を持って考えるきっかけとなる。
- ・ ダイバーシティ化には必須のことだと思う。たくさんの個性があるなかでどうやって生活していくかを考えることが一番の持続可能な社会作りであるということは多くの研究成果でも出ている。
- ・ 社会に出た際に、多様性のある生徒への配慮や理解が深まる。
- ・ 多様性を体験的に理解することができる。

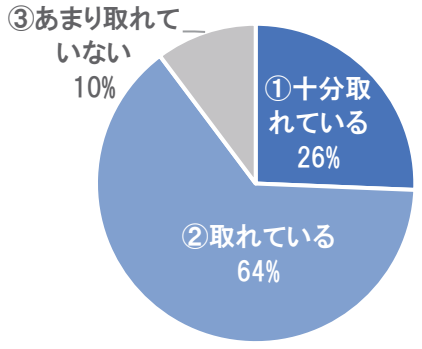
- ・ 様々な生徒が共に学び、多様性を尊重する取組ができていると思う。
- ・ 健常者と障害のある生徒が同じ環境（学び舎）を共有することで互いのことを理解するきっかけとなっている。
- ・ 他者を理解する気持ちや、共にどのように楽しむかなど、生徒の知見が広がったように感じる。
- ・ 日々の交流や行事での協同等を通じて、ノーマライゼーションの意識が養われている。
- ・ 多くの生徒が保育園、小学校、中学校を通して一緒である地域として、上級学校としての交流及び共同学習の取組は、生徒、保護者、そして教職員にとって大変意義のあることだと考える。

**問3 八丈分教室の生徒と八丈高等学校の生徒の交流活動（内容や回数、頻度）は十分できていると思いますか。**



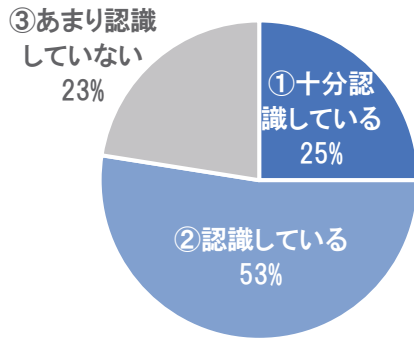
|            |     |     |
|------------|-----|-----|
| ①十分できている   | 6人  | 15% |
| ②できている     | 26人 | 65% |
| ③あまりできていない | 8人  | 20% |
| ④できていない    | 0人  | 0%  |

**問4 八丈高等学校と八丈分教室の教員は十分な連携が取れていると思いますか。**



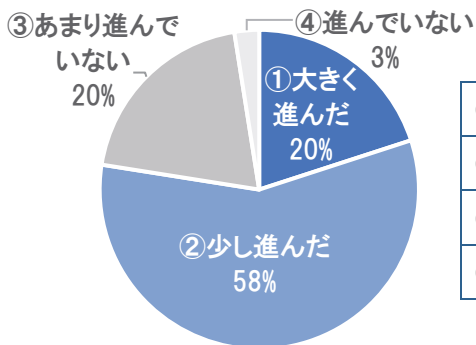
|            |     |     |
|------------|-----|-----|
| ①十分取れている   | 10人 | 26% |
| ②取れている     | 25人 | 64% |
| ③あまり取れていない | 4人  | 10% |
| ④取れていない    | 0人  | 0%  |

問5 八丈島に八丈分教室があることを、島内の人々は認識していると思いますか。



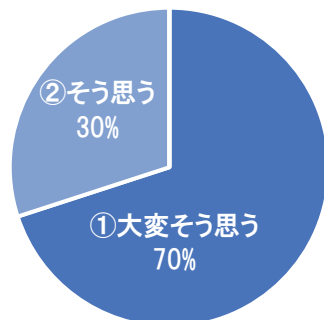
|             |     |     |
|-------------|-----|-----|
| ①十分認識している   | 10人 | 25% |
| ②認識している     | 21人 | 53% |
| ③あまり認識していない | 9人  | 23% |
| ④認識していない    | 0人  | 0%  |

問6 八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



|            |     |     |
|------------|-----|-----|
| ①大きく進んだ    | 8人  | 20% |
| ②少し進んだ     | 23人 | 58% |
| ③あまり進んでいない | 8人  | 20% |
| ④進んでいない    | 1人  | 3%  |

問7 八丈分教室が八丈高等学校内に設置されたことは良かったと思いますか。



|          |     |     |
|----------|-----|-----|
| ①大変そう思う  | 28人 | 70% |
| ②そう思う    | 12人 | 30% |
| ③あまり思わない | 0人  | 0%  |
| ④思わない    | 0人  | 0%  |

**問8** その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。  
(主な意見)

- ・ 八丈島独自の文化に寄り添いながらの生徒対応に敬意を表す。島にとって悲願の分教室なので、末永く継続されることを信じている。
- ・ 本校にとっても、特別支援教育の知識が必要となる場面が増えている印象があるので、そういった際に助言を頂け、助けられている。
- ・ これからも特別支援教育に関する事など、助言を頂きたい。
- ・ モデルケースとして、ほかの島しょ地域にもつながっていくことを期待する。
- ・ 1年目から交流に関わっているが、年々交流が良くなっていると感じている。今後更に発展すると思う。
- ・ 自然な形で八丈高等学校と交流の場を設定しており大変好感が持てる。八丈分教室の教員の方々の努力と工夫の賜物だと思う。
- ・ いつもきめ細かな指導をされていて素晴らしいと思う。
- ・ 運動や芸術分野の課外活動を活発にして、島外の大会等に積極的に参加すれば、生徒の成長のみならず、八丈分教室の存在を更に島民に周知できる。特に個人種目、個人出展であれば優秀な成績を収められる可能性は十分あると思う。
- ・ 全日制だけでなく、定時制とのコラボ活動があっても良いと思う。活動時間帯が遅くなるので「星空観察会への参加」などから始めたい。
- ・ 八丈分教室の生徒が教室棟にある講義室を使用することは、全日制の生徒にも良い刺激を与えている。これは今後も続けるべきだと思う。
- ・ 現在は格技棟で授業を実施しており、イベント的に交流しているため、八丈高等学校の生徒にとっては特別な交流になっているように感じてしまう。日常においてもう少し近くにいれば理解が深まると思うため、校舎を改築し日常から触れ合う機会を作れると、将来的に更にダイバーシティへの理解が深まるのではないかと思う。

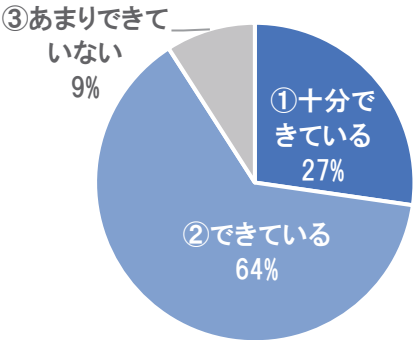
## 考察

- 八丈高等学校の教員全員が八丈分教室との交流に教育上の意義を感じている。
- 具体的な教育上の意義としては、多様性や共生社会の理解促進、ノーマライゼーションの意識醸成といった意見が多く挙げられている。
- また、日頃の交流を通じ、八丈高等学校の生徒が自主的に八丈分教室の生徒をサポートする姿が見られるなど、インクルーシブな教育の観点から意義深いとする意見もあった。
- 両校の生徒の交流活動や教員の連携については、8割以上の教員からできている、取れているとの感想であった。
- 一方で、約2割の教員は両校の交流や教員の連携についてあまりできていないと回答している。これは、八丈分教室教員へのアンケート調査と同様、コロナ禍の特殊な環境下で教育活動が制限される場面があったことから、生徒間の交流等が思ったよりできなかったと感じている教員がいることも考えられる。今後は八丈高等学校との交流についてより綿密な実施計画を策定するとともに、日頃からの声掛け等、両校の連携について取組方を工夫していくことが求められる。
- 八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では約8割の教員が効果を感じているが、残り2割の教員はあまり効果を感じられていないと回答している。間接的な印象である点に注意が必要ではあるが、より多くの島民に八丈分教室を認識してもらうよう、引き続き八丈分教室の効果的なPRは必須である。
- 八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことについては教員全員が良かったと考えており、今後様々な分野での両校の交流が期待される。
- 自由意見としては、八丈高等学校においても特別支援教育の知識が必要となる場面が増えているため、そういった際に助言があり助けられていること、八丈分教室教員の努力や工夫により八丈高等学校との連携が進んでいることなど、八丈分教室教員の取組姿勢に対し、感謝の言葉が多く寄せられている。



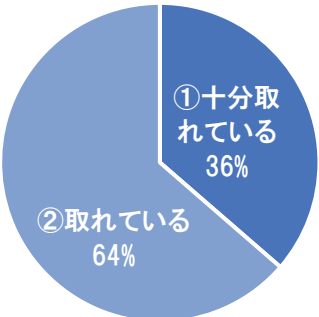
**VII 八丈高等学校経営企画室職員アンケート調査結果（回答 11 人）**

**問1 八丈分教室の生徒と八丈高等学校の生徒の交流活動（内容や回数、頻度）は十分できていると思いますか。**



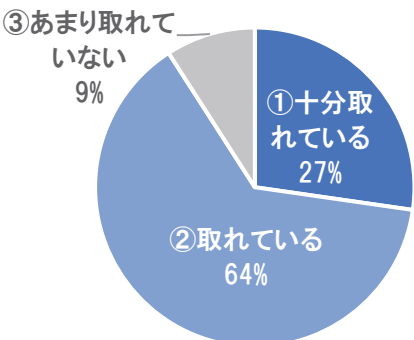
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分できている   | 3人 | 27% |
| ②できている     | 7人 | 64% |
| ③あまりできていない | 1人 | 9%  |
| ④できていない    | 0人 | 0%  |

**問2 八丈高等学校と八丈分教室の教員は十分な連携が取れていると思いますか。**



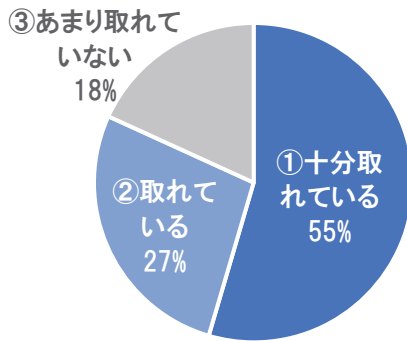
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分取れている   | 4人 | 36% |
| ②取れている     | 7人 | 64% |
| ③あまり取れていない | 0人 | 0%  |
| ④取れていない    | 0人 | 0%  |

**問3 八丈分教室と本校の青鳥特別支援学校とは十分な連携が取れていると思いますか。**



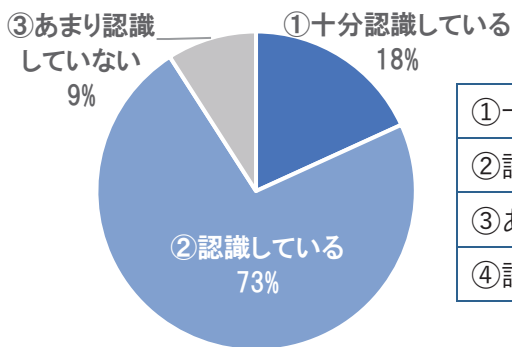
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分取れている   | 3人 | 27% |
| ②取れている     | 7人 | 64% |
| ③あまり取れていない | 1人 | 9%  |
| ④取れていない    | 0人 | 0%  |

問4 八丈分教室と島内の役場や支庁等関係機関とは十分な連携が取れていると思いますか。



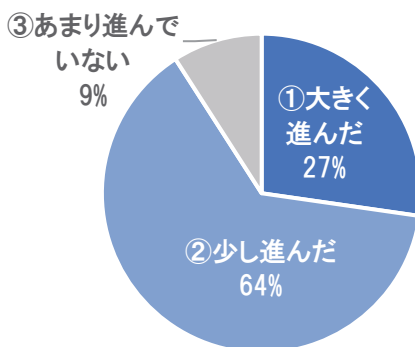
|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①十分取れている   | 6人 | 55% |
| ②取れている     | 3人 | 27% |
| ③あまり取れていない | 2人 | 18% |
| ④取れていない    | 0人 | 0%  |

問5 八丈島に八丈分教室があることを、島内の人々は認識していると思いますか。



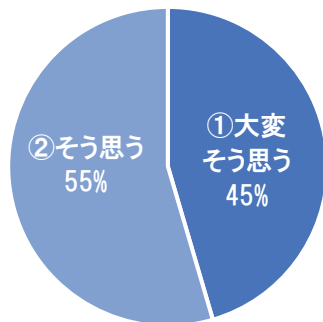
|             |    |     |
|-------------|----|-----|
| ①十分認識している   | 2人 | 18% |
| ②認識している     | 8人 | 73% |
| ③あまり認識していない | 1人 | 9%  |
| ④認識していない    | 0人 | 0%  |

問6 八丈島に八丈分教室が設置されたことで、島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますか。



|            |    |     |
|------------|----|-----|
| ①大きく進んだ    | 3人 | 27% |
| ②少し進んだ     | 7人 | 64% |
| ③あまり進んでいない | 1人 | 9%  |
| ④進んでいない    | 0人 | 0%  |

問7 八丈分教室が八丈高等学校内に設置されたことは良かったと思いますか。



|          |    |     |
|----------|----|-----|
| ①大変そう思う  | 5人 | 45% |
| ②そう思う    | 6人 | 55% |
| ③あまり思わない | 0人 | 0%  |
| ④思わない    | 0人 | 0%  |

問8 その他、八丈分教室に対してご意見等がありましたらご記載ください。  
(主な意見)

- ・ 支援の必要な子供たちが、中学校を卒業した後、学校から放り出されることなく、自宅近くの特別支援学校高等部の分教室で社会へ出る準備を学べること、八丈島でも都内と同じ教育環境を得られることは、有り難いと思う。
- ・ 生徒だけでなく保護者、教員、島内の人々に理解が深まり、良い影響を及ぼしていると感じている。
- ・ 特別支援学校の高等部は、障害のある児童・生徒が島内で適切な支援を受けて成長していくためには必要な施設であると強く思う。
- ・ 八丈分教室と八丈高等学校の交流の機会については、行事以外の特別清掃等でも一緒に活動ができるのではと思う。

### 考察

- 八丈高等学校との交流については、活動内容や教員との連携においてほぼ全ての職員が十分できていると捉えている。
- 本校である青鳥特別支援学校や八丈町役場等の関係機関との連携についても大多数の職員が取れていると考えている。
- 八丈分教室の認知度や障害に対する理解の面では、8割以上の職員が効果を感じている。
- 八丈高等学校内に八丈分教室が設置されたことについては、職員全員が良かったと感じており、学校を支える経営企画室職員にとっても両校の交流は有意義であると考えられている。

## (4) 調査の総合考察

### ① 八丈分教室での学習

- 八丈分教室生徒の約8割が八丈分教室での学習を楽しんでいると感じており、生徒全員が八丈島で学習できることをうれしいと回答している。また、保護者の全員と多くの八丈分教室教員は生徒の教育的ニーズに応じた学習ができていると考えている。このことから、八丈分教室での学習は生徒の満足度を十分高められていると考えられる。
- 島内に八丈分教室が設置されたことは、保護者全員が自身の負担軽減につながったと考えており、また、八丈分教室の存在が八丈島への移住のきっかけにもなっていることから、八丈分教室は八丈島にとって重要な存在になっていると言える。

### ② 八丈高等学校との交流・連携

- 八丈分教室生徒の約8割が八丈高等学校の生徒と一緒に活動することを楽しいと感じており、八丈分教室生徒保護者からは八丈高等学校との交流・連携により八丈分教室生徒の集団行動が身に付くとの意見があった。
- 八丈分教室教員の全員、八丈高等学校教員の約8割が両校の生徒の交流活動は十分できていると感じており、両校の教員間の連携に関しても8割以上の教員が取れていると回答している。
- 両校の交流の意義については、多様性や共生社会への意識を高めること、インクルーシブな教育の充実等が多く挙げられ、日々の交流を通じ両校の生徒がお互い良い刺激を受け成長につながっているという感想からも、高等学校内に分教室を設置した効果が十分発揮されていると考えられる。
- 集団活動の中で社会性を身に付けていくためにも、八丈高等学校との交流は重要な役割を担っているということが出来る。

### ③ 理解啓発の促進

- 八丈分教室が設置されたことで島内の人々の障害に対する理解が進んだと思いますかの問いに対して、調査対象の約8割の方が理解は進んだと回答している。
- 八丈分教室との今後の交流について、八丈高等学校の生徒からは、障害がある人とでも一緒に楽しめるような交流、八丈分教室の生徒が安心してできる交流等を希望する声もあり、相互理解の面でも良い影響が出ている。

- 島内の人々の認識度や理解度に対する回答は間接的な印象である点に注意が必要ではあるが、八丈分教室の設置が障害に対する理解促進につながっていることは確かであると言える。
- なお、八丈島には約30年前から、障害者支援施設として「ちょんこめ作業所」があり、その活動は島民に広く認知されている。そのため、幼い頃から障害に対する理解を持ち合わせており、元来八丈島には特別支援学校の分教室を受け入れる土壌が整備されていたと考えることもできる。

#### ④ 八丈分教室の魅力向上

- 八丈島に八丈分教室があることを島内の人々は認識していると思いますかの問いに対し、調査対象の約8割の方が認識していると回答している。
- 一方で、八丈分教室をあまり認識していないとする声もあることから、八丈分教室のPRは今後も継続的に進めていく必要がある。
- 八丈高等学校に八丈分教室が設置されたことに関して、約9割の方が良かったと感じており、3年間のモデル事業を通じ、八丈分教室設置の目的や意義が地域に十分理解されたと考えられる。
- 自然豊かな環境での丁寧な教育指導、八丈高等学校との交流を通じた集団学習の確保、共生社会実現に向けた教育等、自由意見では様々な八丈分教室の魅力が挙げられており、今後島内外に八丈分教室をアピールしていく際には、これらの強みを前面に出していくことが有効である。

#### ⑤ 島内企業等との連携

- 八丈分教室で実施している就業体験や産業現場等における実習等について、八丈分教室生徒の約8割が役に立ったと感じている。また、ほとんどの保護者にとっても、八丈分教室の進路指導は有効であると考えられている。
- 全ての八丈分教室教員にとっても就業体験等の有効性は感じられているが、一方で就労先が少ない点や障害者雇用についての理解促進に課題があると指摘する意見もあった。
- 島内関係機関、特に八丈町役場や八丈町教育委員会と引き続き連携を強化し、更なる就労先の拡大や、八丈分教室卒業後の生活支援等について検討していく必要がある。

## 資料2 八丈町役場へのヒアリング調査

### (1) ヒアリング調査概要

八丈分教室生徒の就労や卒業後の日常生活でのフォロー、また、障害者雇用に関する普及啓発については、地元自治体である八丈町役場の協力が不可欠である。そのため、第2回あり方検討委員会において八丈町役場にオブザーバーとして参加していただき、就労支援策や八丈分教室への期待、課題等のヒアリング調査を行った。(八丈町役場対応者：総務課長、福祉健康課長)

### (2) ヒアリング調査内容

#### ア 八丈分教室の認知度について

- 八丈高等学校と一緒に体育祭や文化祭に取り組んでいることや、島内各所での就業体験等を通じて、多くの島民が認識している。

#### イ 障害に対する理解促進について

- 従来から島内にある障害者支援施設ちよんこめ作業所等の認知度が高く、多くの島民がボランティア活動や資源回収、イベント等を通じて、障害のある方々と日常的に接している。そのため、障害に対する理解は進んだ地域ではあるが、八丈分教室の設置により更に理解が進んだと認識している。

#### ウ 島外からの生徒の受入れについて

- 八丈町は人口が減少しており、令和5年4月で7千人を下回った。八丈町への移住促進については町として一番の課題と捉えているため、島外からの生徒の受入れについて積極的にバックアップしていきたい。
- しかしながら、島には学生寮がなく、生徒単身ではホームステイによる受入れも困難のため、保護者と移住していただくことになる。
- また、離島のため内地と同等の医療サービスや福祉サービスの提供は難しくなる。
- 住居については、八丈町には421戸の町営住宅があり、低所得者の方の利用がメインだが、その中でも障害のある方や世帯の方は優先して入居できる制度がある。

## エ 就労支援策について

- 八丈町としても、八丈分教室卒業後の就労については非常に大切な課題であると認識している。
- 島内には就労継続支援 B 型事業所が 2 か所ある。当該事業所に対する軽作業等の業務委託の拡大を進めるなど、連携強化を図っていく。
- また、島内の民間事業者に対する障害者雇用の勉強会等の開催について、関係部署と協力して検討していく。
- 町の基幹産業である農業を障害者の方の仕事として取り入れ、農業と福祉が連携した農福連携という新しい形の雇用を検討していたが、新型コロナウイルスの関係で講習会等ができなくなり、一旦仕切り直しになっている。今後、農作業体験等の試験的な取組を実施し、システムの構築を進めていく。
- 八丈町役場での雇用について、八丈分教室の生徒には今まで 2 回職業体験に来てもらっている。町としては障害者採用選考や障害者の会計年度任用の実施に向けた検討を進めている。

## オ 日常生活でのフォローについて

- 町には現在、障害者支援専門員等の設置はないが、八丈分教室や卒業生個人から日常でのフォローの相談、あるいは障害者支援事業所を通じた支援依頼等があれば、関係機関と連携し、障害福祉サービスに基づいた支援に努めていく。

## カ 八丈分教室への期待や課題について

- 八丈分教室については、中学校 PTA 会長をはじめ、中学校まで一緒に学んだ同級生たちと引き続き共に学べるという喜びの声が多数届いている。
- また、八丈分教室の継続についても、島民から多数の声が寄せられている。
- その上で、今後 10 年、20 年と継続していくときに、狭い島内において八丈分教室卒業生たちの就労先のキャパシティが飽和状態になってしまうことを課題として捉えている。
- 八丈分教室卒業生の就労先の確保について、障害者雇用の会議等を開催し、島内での障害者理解に対する教育を進めていきたい。

## 資料3 八丈町立小・中学校へのヒアリング調査

### (1) ヒアリング調査概要

八丈町には、三根小学校、大賀郷小学校及び三原小学校の三つの小学校と、富士中学校、大賀郷中学校及び三原中学校の三つの中学校がある。あり方検討委員会はこのうち、特別支援学級を設置している三根小学校と大賀郷中学校の校長に対し、八丈分教室に関するヒアリング調査を行った。

### (2) 学校概要（児童・生徒数は令和5年5月1日時点）

#### 八丈町立三根小学校

|     |               |      |
|-----|---------------|------|
| 児童数 | 通常の学級         | 167人 |
|     | 特別支援学級        |      |
|     | ひまわり学級（知的障害）  | 5人   |
|     | たんぽぽ学級（肢体不自由） | 1人   |
|     | 合 計           | 173人 |

#### 八丈町立大賀郷中学校

|     |              |     |
|-----|--------------|-----|
| 生徒数 | 通常の学級        | 40人 |
|     | 特別支援学級       |     |
|     | 桃組（知的障害）     | 6人  |
|     | 桜組（自閉症・情緒障害） | 1人  |
|     | 合 計          | 47人 |

### (3) ヒアリング調査内容

#### ア 八丈分教室の認知度について

##### 〈三根小学校〉

- 八丈分教室は町の広報誌等を通じ PR を行っているため、多くの島民が認識していると考えている。
- 八丈高等学校と日頃から交流や連携が図られており、島民にとって良いイメージがある。
- 離島せずに高等学校へ進学させられることで、島民は安心感を持っていると考えている。



#### 〈大賀郷中学校〉

- 特別支援学級の生徒の保護者は八丈分教室の説明会等が開催されているため、全員認識している。
- 普段から八丈分教室の教員が生徒を丁寧に指導している姿をよく見かけるため、努力されていることは伝わっている。
- 島内に八丈分教室があることで島民は安心感を持っている。

### イ 障害に対する理解促進について

#### 〈三根小学校〉

- 八丈島には以前から社会福祉協議会やちょんこめ作業所の取組が盛んであり、その活動を通して、島民の障害に対する理解は進んでいる。

#### 〈大賀郷中学校〉

- 八丈島では、障害者の就労先としてちょんこめ作業所の活動内容の印象が強く、以前から島全体として障害に対する理解は高い。

### ウ 八丈分教室の八丈高等学校内設置について

#### 〈三根小学校〉

- 小学校や中学校に在籍中、交流活動等を行ってきた生徒たちが八丈高等学校や八丈分教室に進学している。学校行事における交流が可能な八丈高等学校内に八丈分教室が設置できたことは良かったと感じている。

#### 〈大賀郷中学校〉

- 八丈高等学校との交流を通じ、今までの生徒たちのつながりが継続できる。非常に良い取組である。

### エ 八丈分教室との連携について

#### 〈三根小学校〉

- 説明会や学校公開、教職員研修等を通じ普段から連携している。
- 八丈分教室の教員には、特別支援学級に限らず、通常の学級の児童についても観察をして支援についてアドバイスを頂きたい。
- 今後八丈分教室が、八丈島における特別支援教育のセンター的機能の体制を整えることを期待する。

### 〈大賀郷中学校〉

- 現状では、進学相談の際に生徒情報等を共有している。
- 大賀郷中学校には特別支援学校への就学が適当な子から障害の程度が軽い子まで在籍しており、チームで対応することの難しさがある。ぜひ八丈分教室の教員には引き続き御支援をお願いしたい。
- 八丈分教室の教育課程に本校である青鳥特別支援学校の職能開発科のプログラムを取り入れることで、職能開発科を希望する生徒も島を離れることなく八丈分教室で学ぶことができると考えている。

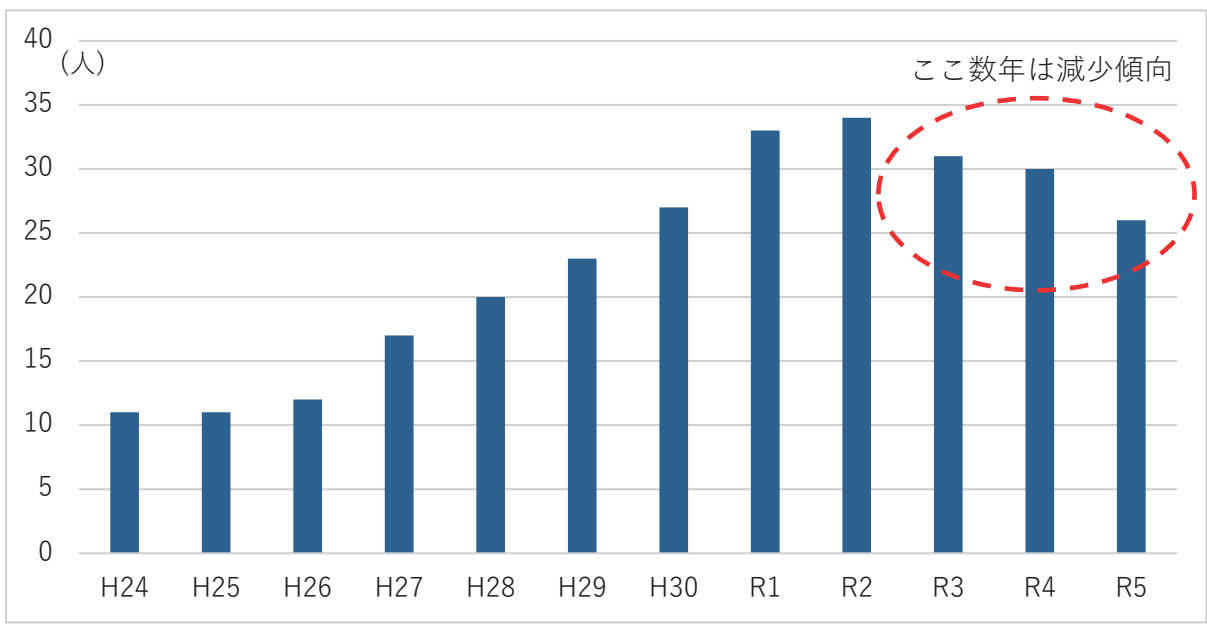
## 資料4 島しょ地域の知的障害特別支援学級 在籍者の状況

表1 島しょ地域の知的障害特別支援学級 在籍者数 (単位：人)

| 令和5年<br>5月1日時点 | 小学校 |   |   |   |   |   | 中学校 |   |   | 総計 |
|----------------|-----|---|---|---|---|---|-----|---|---|----|
|                | 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1   | 2 | 3 |    |
| 大島町            | 0   | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0   | 0 | 1 | 5  |
| 利島村            |     |   |   |   |   |   |     |   |   |    |
| 新島村            | 0   | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0   | 1 | 0 | 2  |
| 神津島村           | 0   | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0   | 0 | 0 | 3  |
| 三宅村            | 0   | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0   | 0 | 0 | 3  |
| 御蔵島村           |     |   |   |   |   |   |     |   |   |    |
| 八丈町            | 0   | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1   | 1 | 4 | 11 |
| 青ヶ島村           |     |   |   |   |   |   |     |   |   |    |
| 小笠原村           | 0   | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0   | 1 | 0 | 2  |
| 計              | 0   | 1 | 4 | 0 | 6 | 6 | 1   | 3 | 5 | 26 |

(※) 利島村、御蔵島村及び青ヶ島村の小・中学校には特別支援学級が設置されていないため未計上

表2 島しょ地域の知的障害特別支援学級 在籍者数の年度推移



## 資料5 八丈町の知的障害特別支援学級 在籍者の状況

表1 八丈町の出生年度別知的障害特別支援学級 在籍者数

(単位：人)

| 出生年度 | 小1時  | 小2時  | 小3時  | 小4時  | 小5時  | 小6時  | 中1時  | 中2時  | 中3時  | 増数(※) |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| H14  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 1    | 1     |
| H15  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0     |
| H16  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    | 1    | 1     |
| H17  | 0    | 0    | 0    | 0    | 2    | 2    | 3    | 3    | 3    | 3     |
| H18  | 1    | 1    | 2    | 2    | 2    | 2    | 4    | 4    | 3    | 2     |
| H19  | 1    | 1    | 1    | 1    | 2    | 2    | 2    | 2    | 2    | 1     |
| H20  | 1    | 1    | 3    | 3    | 3    | 4    | 4    | 4    | 4    | 3     |
| H21  | 0    | 0    | 0    | 1    | 1    | 1    | 1    | 1    |      |       |
| H22  | 1    | 1    | 2    | 1    | 1    | 1    | 1    |      |      |       |
| H23  | 2    | 2    | 2    | 2    | 2    | 2    |      |      |      |       |
| H24  | 1    | 2    | 2    | 2    | 2    |      |      |      |      |       |
| H25  | 0    | 0    | 0    | 0    |      |      |      |      |      |       |
| H26  | 0    | 0    | 0    |      |      |      |      |      |      |       |
| H27  | 1    | 1    |      |      |      |      |      |      |      |       |
| H28  | 0    |      |      |      |      |      |      |      |      |       |
| 平均人数 | 0.53 | 0.64 | 0.92 | 1.00 | 1.36 | 1.40 | 1.67 | 1.75 | 2.00 | 1.57  |

(※) 増数は「中3時の在籍者数」から「小1時の在籍者数」を引いた数

表2 八丈町の知的障害特別支援学級 在籍者数

(単位：人)

| 令和5年<br>5月1日時点 | 小学校 |   |   |   |   |   | 中学校 |   |   | 総計 |
|----------------|-----|---|---|---|---|---|-----|---|---|----|
|                | 1   | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1   | 2 | 3 |    |
| 八丈町            | 0   | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1   | 1 | 4 | 11 |

- 表1の平均人数を見ると、学年が上がるにつれ特別支援学級の在籍者数が増えていく傾向が読み取れる。
- 特に、H17とH20出生児は、小1時と比べ中3時には3人の増加が見られる。
- 大島町や三宅村等においても、母数は少ないが学年が上がると在籍者数が増える傾向は見られる。
- 表2から、令和5年5月1日時点では八丈町において小学校1年生、3年生及び4年生の在籍者数はいないが、上記傾向を踏まえると今後出現する可能性は高い。

## 資料6 島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会 設置要綱

令和5年6月7日決定  
5 教学特第 760 号

(設置)

第1 八丈町における特別支援学校分教室のモデル事業の検証を行うとともに、島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方を検討するため、島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所管事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項について検討及び協議を行う。

- (1) 青島特別支援学校八丈分教室における取組内容に関する事項
- (2) 島しょ地域における特別支援学校分教室の設置に関する事項
- (3) その他必要な事項

(構成)

第3 委員会は、東京都教育庁（以下「教育庁」という。）関係者、東京都立特別支援学校関係者、学識経験者等のうちから、教育長が任命及び委嘱する者をもって構成する。

(委員長等)

- 第4 委員会に委員長を置き、教育庁特別支援教育推進担当部長の職にある者をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を主宰し、会務を総括する。
  - 3 委員会に副委員長を置き、教育庁都立学校教育部特別支援学校改革推進担当課長の職にある者をもって充てる。
  - 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が不在のときは、その職務を代理する。

(設置期間)

第5 委員会の設置期間は、設置された日から令和6年3月31日までとする。

(作業部会)

第6 委員会の検討事項の整理、その他委員長から指示のあった事項を処理するため、必要に応じて作業部会を置くことができる。

(意見聴取)

第7 委員会は、必要に応じて、関係者の出席を求め、意見を聴取することができる。

(会議及び会議資料等)

第8 委員会の会議及び会議資料等は、原則として非公開とする。

(庶務)

第9 委員会の庶務は、教育庁都立学校教育部特別支援教育課が担当する。

(その他)

第10 本要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、令和5年6月7日から施行する。

## 資料7 島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会 委員名簿

|            | 氏名    | 所属                              | 備考   |
|------------|-------|---------------------------------|------|
| 学識<br>経験者  | 橋本 創一 | 東京学芸大学<br>特別支援教育・教育臨床サポートセンター教授 |      |
|            | 涌井 恵  | 白百合女子大学<br>人間総合学部発達心理学科准教授      |      |
| 東京都<br>教育庁 | 落合 真人 | 特別支援教育推進担当部長                    | 委員長  |
|            | 大村 公洋 | 都立学校教育部特別支援学校改革推進担当課長           | 副委員長 |
|            | 臼井 宏一 | 都立学校教育部高等学校教育課長                 |      |
|            | 鞠子 雄志 | 都立学校教育部特別支援教育課長                 |      |
|            | 深谷 純一 | 都立学校教育部主任指導主事<br>(特別支援教育推進担当)   |      |
|            | 中村 大介 | 指導部特別支援教育指導課長                   |      |
|            | 西岡 陽子 | 指導部主任指導主事<br>(特別支援教育担当)         |      |
|            | 奥富 洋一 | 人事部人事計画課長                       |      |
| 学<br>関係者   | 諏訪 肇  | 東京都立青島特別支援学校長                   |      |
|            | 佐藤 俊一 | 東京都立八丈高等学校長                     |      |
|            | 小榮 崇裕 | 東京都立青島特別支援学校副校長<br>(八丈分教室担当)    |      |

**島しょ地域における特別支援学校分教室のあり方検討委員会 報告書**

東京都教育委員会印刷物登録

令和5年度 第89号

令和6年1月発行

編集・発行 東京都教育庁都立学校教育部特別支援教育課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話番号 03-5320-6762

